

# 濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1147

「NEWSな濟生人」  
児童福祉の力で  
“命のバトン”をつなぐ



1

January 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜財団

濟生会



# 濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani



## 歴史的変動へ油断なき備え

毎年1月号は、今年の子測を述べてきた。これまでの実績は、大筋では外れることはなかった。昨年は民主主義国家と専制主義国家の対立が激化し、物資の輸出が幅広く制限される。また、国内では人手不足が深刻化する。物やサービスの生産に支障を生じ、一部の分野では供給が停滞する。他分野に比べ、医療や福祉により深刻になると警

告を發した。昨年は病院の外來・入院の患者数が予想以上に落ちた。国民の健康水準が向上した結果ならば、喜ばしいことだが、これを裏付けるデータはない。大きな原因は病院が医師・看護師・看護補助者等の職員が得られず、病棟の閉鎖や外來診療の制限などをせざるを得なかったことである。

今年はどうだろうか。昨年の上記の状態は、もっと深刻化する。最大の不確定要素は、トランプ氏の再登場である。多くの識者は「どんな行動を取るのか予測不可能だ」と述べる。しかし、第1期の政権運営、選挙戦での発言等から第2期の予測はできる。

トランプ氏は国内産業を守り、雇用を増大させるため高い関税を課すという保護主義の政策を選挙戦で掲げてきた。これは得意のディール（交渉手段）だといふのが大方の見方だが、あれほど明確に発言を繰り返してきた以上、相手国の妥協がなかつ

たならば、実行に移すと読むべきだろう。これは結果的にアメリカ国内の商品価格を高騰させ、インフレを招く。そして景気は低落する。公約している不法移民の国外退去や強力な人国防止策も段階的に実施されると読むべきである。これも人手不足を招き、物価を高騰させる。

米国民がトランプ氏を大統領に選んだ最大の理由は、インフレによる生活苦に対する対策の期待だったが、反対にその期待を裏切ることになってしまう。

中国を始め諸外国の経済に対するダメージは計り知れない。日本経済に対する影響も甚大である。高齢者や非正規雇用者等の生活は、一層悪化し、社会の分断・分裂は拡大する。出生数の減少は続く。

このような変化に対応するため、濟生会はインクルーシブ社会の建設に一層、力を注がねばならない。一方で濟生会の病院・福祉施設の経営は、さらに厳しくなるので、本部・支部・病院・施設が一体となって経営基盤の強化に努力し、住民の期待に応える体制を整える1年にな

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するとき用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

think!

sync!



知る・見つける・支える

## ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion **シンク!**

ソーシャルインクルージョンを  
多くの人々に知ってもらうための  
ウェブメディアです。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。  
愛称の「シンク!」は、social inclusionから名付けました。  
think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

濟生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの  
実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それが濟生会の思いです。

知る・見つける・支える  
ソーシャル  
インクルージョン  
Social Inclusion **シンク!**



社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311(代)  
Email: headoffice@saiseikai.or.jp

<https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/>

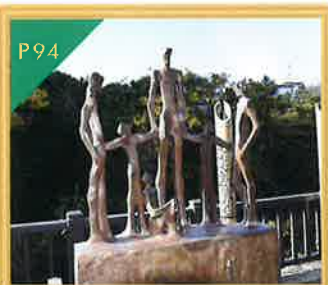




# topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!  
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。済生コンシェルジュがおすすめする記事をご紹介します。



〈静岡〉川奈臨海学園から車で15分ほどの伊東市松川町。北里柴三郎博士ゆかりの地だそうです。何があるのでしょうか？（大雑報）



静岡済生会総合病院で行なわれたグレードAシミュレーションとは？多職種が連携して母親と赤ちゃんを守ります。

【おすすめPOINT】  
改めて出産は“命がけ”なのだと感じました。訓練に訓練を重ねたチーム医療で母親と赤ちゃんを守って下さい！



〈埼玉〉川口総合病院の済生記者が病棟クラークさん2人にインタビュー、仕事のやりがいを聞きました。（大雑報）



## 表紙のことば

### 「おもと」もスズメも縁起を祝う

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

万年青と書いて「おもと」と読みます。徳川家康が「天福の霊草」として贈られた万年青を床の間に飾り江戸城に入城。それから江戸時代は260年続きました。家康に愛された万年青は人々をも熱狂させ幾

度もの大ブームを起こしています。生命力のある青々とした力強い葉は芸達者。実に40種もの芸\*があるそうです。伸びやかに力強く八方へ栄え喜びが続く。そんな一年になりますように。

\*江戸時代より熱烈な愛好家が多かった万年青は、その形・柄のさまざまな違いが“葉芸”と呼ばれ、見立て（観賞）のポイントとされてきました。

# 済生

SAISEI

CONTENTS  
JANUARY, 2025

## NEWSな済生人

- 児童福祉の力で“命のバトン”をつなぐ  
〈栃木〉宇都宮乳児院 院長  
**荻津 守さん** +  
大阪乳児院 院長  
**今西裕子さん** + 06  
〈静岡〉児童養護施設川奈臨海学園 施設長  
**高橋麻紀さん** +  
里親  
**岩崎真知子さん**

## 済生会交差点

〈元患者・家族・支援者の旅に同行〉ハンセン病回復者で行く親睦旅行——次世代へどう伝える？人権や尊厳を考えるきっかけに  
／〈外国人診療支援〉異文化交流会で外国人対応を学習。国際診療支援チームが院内整備を進める／〈ボランティア部で認知症マップ作り〉「はまマップ」が認知症の理解と啓発の一助に。地域とつながるきっかけにも

## 連載 機関誌「済生」が創刊100年!



巻頭コラム 済生会の不易流行論	03
歴史的変動へ油断なき備え 理事長 炭谷 茂	
NEW topicS★コンシェル	05
表紙のことば 久保田真由美	
済生会フェア	18
〈福岡〉大牟田医療福祉センター	
〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院	24
沖縄県で初のシンポジウム 誰一人取り残されない社会を目指して	20
ソーシャルインクルージョン	22
カレンダーなでしこ写真 入選のことば	28

この人 木村慧人	30
口福につぼん 吉井省一	32
だれでもかんたん てづくりおもちゃ いまいみさ	34

TOPICS	36
載々、大雑報	89

題字協力：石飛博光  
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL





乳児院や児童養護施設は社会的養護を必要とする子どもたちの施設です。国が家庭に近い環境や小規模ユニットでの養育を推進する中で、どのように「命のバトン」を受け渡していけばいいのか。栃木県から児童家庭支援センターを受託する宇都宮乳児院の荻津守院長、里親支援センター「おむすび」の展開を目指す大阪乳児院の今西裕子院長、済生会唯一の児童養護施設・川奈臨海学園の高橋麻紀施設長、里親歴20年以上の岩崎真知子さんと語りました。

（済生会本部広報課）

済生会には児童福祉施設として乳児院や児童養護施設があります。切れ目のない支援では里親さんとの連携も重要です。岩崎さんは里親をされてどのくらいいたのでしょうか。

岩崎 里親登録をして20年以上が経ちます。長期で預かった里子は3人。現在は小学6年生と高校3年生の2人を育てています。

今西 子どもが里親さんのところに行ってもアフターフォローが足りず不調（里親と子どもの関係悪化が原因で委託が解除にな

ること）になるケースを耳にします。私たちはそれらを減らしたい。岩崎さんが次の養育者にバトンをつなぐときはどのようなことに気を付けていますか。

岩崎 一時保護で預かった子を次の里親さんに、つなぐ、ことがあります。我が家から4歳になる前に特別養子縁組に行ったりは、措置変更をする前に6カ月かけて慣らす時間を設けました。土日にショートステイのように里親さんのところに泊まったり、幼稚園の行事にも参加してもらいました。

——そこまでやるのは大変な努力です。岩崎 預かっている以上は次のところで幸せになってほしい。措置変更を急いで不調になるのなら、ここで頑張ったほうが子どものためになると思います。

※写真撮影時のみマスクを外しています



大阪乳児院 院長  
**今西裕子**さん

里親  
**岩崎真知子**さん

川奈臨海学園の地域交流室。学園の子どもたちが描いた絵が飾られている



七五三では成長した姿を地域の方々に見てもらう（川奈臨海学園）



〈静岡〉児童養護施設川奈臨海学園 施設長  
**高橋麻紀**さん

〈栃木〉宇都宮乳児院 院長  
**荻津守**さん



さまざまな人や施設が連携して  
切れ目のない支援を実現

——乳児院から児童養護施設や里親さんにはどのように送り出すのでしょうか。

荻津 乳児院は基本的に3歳くらいまでなので、理解や自分の意思を伝えることが難しいこともあります。しかし、受け入れ予定の施設や里親さんから写真をもらって、毎日見られるように枕元に置いて、少しでも早く関係づくりができるようなサポート

をしています。

今西 私たちは受け入れ先の方が来る時子どもに「〇〇ちゃんに会いたい人が来るよ」と伝えていきます。そういつて何度か会っていく中で関係性ができて、乳児院を巣立つときには私たち職員ではなく受け入れ先の方に抱っこされていく子もいます。——受け入れる側としてはいかがですか。



定員80人の宇都宮乳児院は栃木県最大規模の乳児施設



遊びの中から運動発達を促す大阪北リハビリテーション病院の理学療法士（大阪乳児院）

高橋 乳児院から来た子は、愛着の形成がすぐできていくと感じます。当施設では2004年に2歳児を8人受け入れました。そのうち乳児院から来た2人は愛着の形成がすぐスムーズでした。逆に、DVやネグレクトなどの理由で家庭から来た子はなかなか積み上げが難しく、生活環境が子どもにも与える影響はすごく大きいと実感



子どもたちの幸せのために  
大人ができること



①里親支援専門相談員が研修会でベビーバスの使い方を指導（宇都宮乳児院）②里親に関心を持ってもらうため地元キャラクターと一緒に相談会を行なう（川奈臨海学園）③子どもたちの食事では「丈夫な子に育つように」と思いながら調理する（大阪乳児院）④川奈臨海学園は地域住民との交流イベントで児童養護施設を知ってもらう活動も実施

喪失感による退職も……  
支える大人ができることは

「施設を移ったあとの関わり方はどうしているのでしょうか。」  
高橋 年一回必ず交流してくれる乳児院もあれば、引き受けたあとは連絡もいただけない施設もあります。  
荻津 当院では、交流依頼があれば必ず行くようにしていますが、逆に「来ないで」と言われることもあります。その場合には、担当した職員は会いに行きたい強い思いがありますが、我慢してもらおうことになり、すでに生活の場が変わっているの、まずはその環境に慣れることを最優先にしてほしいからです。

今西 他の施設長から、子どもとの別れが悲しくて離職する職員が多いと聞きました。これは大変な課題です。当院の職員には「今、預かって

いる大事な子どもと一緒に育てましょう」と伝え、それをモットーにしています。  
「どのような思いを込めたのでしょうか。」

今西 一度は親御さんと切ないお別れをしているので、抱っこしすぎていいし、たっぷり愛情を注いでいい。  
ただ、しっかりとバトンを次に渡していきましよう、と伝えていきます。  
高橋 私たちとしてはできるだけ交流して、子どもたちに「見守っている大人がたくさんいるんだ」と感じてもらいたいです。

今西 小学生になって「乳児院に遊びに来たい」という子もいて、私たちも歓迎しています。ただ、そのときに当時の職員が誰もいなくなったらその子も寂しい思いをすることにになります。そういうことがないように「できるだけここで長く働こう」と話し合っています。  
高橋 私たちも関わった子どもたちが「ただいま！」と帰って帰ってこられる施設にしたい。いろいろな施設や里親さんと連携をとりながら子どもたちの一生を見ていく仕事だと感じています。

今西 バトンを渡すというよりも人生に關わる一人として、渡した後も子どもが望むときには、伴走したいと思っています。

里親の絶えない悩み  
地域で育てることの重要性

「里親になるハードルは高いのでしょうか？」 岩崎さんはどのように養育していますか。



岩崎 赤ちゃんを預かることになればベビーカーを押して公園に行ったりもします。地域社会の中で子どもを育てるというのはすごく大事なことです。地域の方には良くしていただいている、里子が誕生日のときにケーキをもらったり、私が忙しくて外出するときは学校帰りに預かってもらったりしています。

今西 昔前はそのような近所づきあいがよくありました。  
荻津 新米の里親さんにとって、今の地域や社会は優しいのでしょうか？  
岩崎 私は里親を始める前からボランティア活動などをしていて、里親をしていることを隠すようなことはしませんでした。それに岩崎恭子（元競泳選手）の母と認知されていたので、意外にスムーズに受け入れられていたように感じます。



荻津 里親さんも悩み、苦しい時もあると思います。でも、苦しいと行政に相談すると「この人に養育は難しいのでは」と思わ

れて里子を取り上げられてしまうこともあります。だからこそ、地域において支え、見守ってくれる社会になれば良いと思っています。  
——地域の中で相談相手がいると里親さんも心強いでしょうね。  
岩崎 自宅で里親サロンを初めて20数年がたちます。主にテーマは決まらず参加者とざっくばらんに話をします。子育てをしたことがない里親さんにミルクのあげ方や沐浴の仕方など基本的なことを教えたり、里子を迎えるにあたっての準備や悩みを聞いたりしています。  
高橋 里親さんの悩みは長期的に抱えている問題です。岩崎さんのサロンで愚痴を言ったり、日ごろの思いを吐き出すことで和らぎます。笑顔で帰っていくお母さんとお子さんの姿を見ているとサロン運営の大切さを感じます。

ていくことが理想です。そのためにもまずは里親制度のことを知ってもらうことが重要です。  
岩崎 全国いろいろなところに呼んでもらって里親の話をする機会があります。20数年里親をやってきて皆さんにお話しできることがあると思っている、ぜひお声がけください。  
今西 学校では「なぜ親と苗字が違うのか」と聞く先生がいます。里親は養子縁組だけではないということを知らない。そのことを里親さんが悩みとして話すこともあります。  
——国や各施設で社会的養護が必要な子どもたちの支援を推進している一方で、里親さんが増えない現状があります。



した。その里親さんは何歳の子はこうと決めつけず、〇〇ちゃんはこの子だからと、そのまま受け入れて愛情いっぱいに養育していただいています。半年ほどして来院した時にびっくりするくらい成長している姿をみて嬉しくなりました。本当にうまくいった例ですが、全てそのようにいくとは限りません。  
今西 国は子どもたちを家庭に近い環境で養育する方針で動いていますが、全員がそれで幸せかというと疑問が残ります。社会全体で子どもを育てていくことも大事なことでないでしょうか。  
——さまざまな視点で、その子に合った育て方ができればいいということですね。



荻津 施設では発達に問題のある子や重いアレルギーのある子が増えている印象です。里親さんに全て任せるのは厳しいと思います。施設で専門的養育を行う中で、里親さんの養育のレベルによってうまくマッチングできるように考えています。  
——里親さんとうまくマッチングしたケースはありますか。  
荻津 発達がゆっくりにの子がいて、その子は父親が外国人の里親さんをお願いできま

できる可能性を秘めています。  
今西 済生会には病院があるので、発達などの課題についても医療面で支援できることが強みです。この機関誌を読んで医療機関、特に小児に關係する職員が何かを感じ取ってくれたらうれしいです。

子育ては十人十色  
本当の「子どもファースト」とは

今西 岩崎さんのような方が各地域に増え





邑久光明園の納骨堂。納骨者数は前身の外島保養院も含め3200以上にもなる

その後、参加者は「ふれあいホール」で邑久光明園入所者自治会長の屋猛司さんと意見交換。屋会長は「国立ハンセン病療養所は全国に13カ所

### 邑久光明園で入所者と交流

園内の納骨堂では献花を行ない、これまでに療養所で亡くなった3258人の約半数が、遺族に遺骨を引き取られることなくここに収められていると聞きました。



# 濟生会 交差点

SAISEIKAI・JUNCTION

濟生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で変わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。

園」出身の回復者が「山を越え1時間かけて光明園のグラウンドまで来たなあ」「あっちがホーム側だったよ」と私たちに説明してくれました。



邑久光明園入所者自治会長の屋猛司さんとの意見交換。療養所で暮らす方が高齢化のため自治会の維持が難しくなっていると話していた

その日は夜は、邑久光明園入所者6人も加わり夕食&交流会を開催。回復者の男性は療養所で暮らしていた当時の写真を私たちに見せ、「配偶者や子ども、親族に自分が元患者と知られないように写真を残している人はごくわずか。それは家族が差別を受けられないようにするための」と語り、女性の回復者は「この景色すごくきれいでしょ？ 以前は孤

681人が今も入所している。邑久光明園には50人が暮らしているが、平均年齢は89歳と高齢で施設を退所しても、認知症の発症などで再入所する方が

増えている」と話しました。また、「自治会が存続することで、元患者への補償などを進めることができると訴えました。



グラウンドに今も残るホームベースからは澄んだ秋空が高く見えた



「昔、このグラウンドで野球をやったなあ」と語る回復者



邑久光明園の社会交流会館にある資料展示室



1988(昭和63)年5月に開通した邑久長島大橋は強制隔離を必要としない証として「人間回復の橋」と呼ばれている



療養所がある長島(手前)と対岸(虫明地区)の距離はわずか22mだった

## ハンセン病回復者と行く 親睦旅行

### 次世代へどう伝える？

### 人権や尊厳 を考えるきっかけに



大阪から岡山・長島へはバスで約2時間かかるが車内は常に大盛り上がり

### 回復者・家族・支援者の旅に同行

北海道)小樽老健はまなす 済生記者 (済生会広報実務研究会会員)

### 伝法俊和

関西のハンセン病回復者でつくる「いちようの会」が、11月9・10日に実施した親睦旅行。回復者とその家族や支援者など39人が参加したツアーに筆者と本部広報課の河内淳史さんが同行しました。

旅の行先は岡山県の長島にある国立ハンセン病療養所「邑久光明園」です。大阪市内からバスで約3時間、宿泊先の「かえで会館」に到着後、園内を見学しました。ハンセン病の歴史を学べる社会交流館では療養所の設立や島での暮らしの歴史を学びました。ジオラマを見ながら長島にあるもう一つの療養所「長島愛生



# 異文化交流会で外国人対応を学習 国際診療支援チームが 院内整備を進める



筆者

済生会のビジョンであるソーシャルインクルージョンの理念に基づく社会の実現のため、2023年、当院にも外国人患者の受け入れ体制が必要と考えた当時の総合外来・瀬古里香看護部長と看護師数名を中心に国際診療支援チームを設立。現在

国の統計によると、訪日外国人は増加傾向で外国人の宿泊数は東京都に続き大阪府が第2位（観光庁「宿泊旅行統計調査2023年」）、在留外国人数は第3位（出入国在留管理庁「令和5年末現在における在留外国人数」）であり、日本国内の医療機関でも外国人患者が受診する可能性があると考えられています。



チームは国際支援経験のある医師、日本国際看護師養成研修を修了した看護師、看護管理者、主任看護師、事務員から選出し計11人で構成

チームメンバーである医師の提案により2023年12月に始まり、これまで4回実施しています。目的は英語をメインとした院内での外国人対応の学習で、外部から外国人を招き、都度シチュエーションを設定し、受け付けから診察までを実践形式で実施。実践後はその日のフィードバックや情報交換などで交流をしています。以前から連携のある近隣大学に交流会の趣旨を説明し、イギリス人の留学生を紹介してもらっています。

は医師2人、看護師7人、事務部2人で構成・活動しています。チームはこれまでに、診療申込書や問診票の多言語化、遠隔医療通訳・翻訳タブレットの導入、多言語対応スタッフリストや外国人患者来院フローの作成、各国の特徴をまとめた資料の配信など受け入れ体制の整備や、イントラネットでの活動報告、異文化交流会の開催を行なってきました。

**実践形式で本場の英語を学ぶ  
今後は他言語での実施も**

異文化交流会は国際診療支援

昨年9月に行なわれた交流会では「50歳女性、胸痛を訴えて来院」という設定のもと、研修医が翻訳機を使用せずに診察に挑戦。留学生から「英語が上手」と褒められる一幕もありました。チームメンバーの高橋知子主



交流会では受診者の年齢や症状を設定して実践形式で診察を行なう

を機に、海外のことや国際支援に興味を持ってくれる職員が



交流会では支援者の演奏に回復者も療養所入所者も一緒に楽しんだ



中央は、参加者への取材をしながらもカラオケで場を盛り上げる伝法さん（編集部）

島だったけど邑久長島大橋が開通し本州と行き来できるようになった。でも昔は収容所だった……。面影がないから信じられないでしょ!？」と話していました。支援者の一人は「あと20〜30

年後には関係者全てが亡くなってしまわないか。ハンセン病問題をいかに次世代につないでいくか課題は大きい」と言及しました。国の間違ったハンセン病対策により今も多くの回復者や

その関係者が偏見や差別、精神的苦痛を受けていること。世間から隠れるようにして暮らしている人がいることにショックを覚えました。済生記者として、一人の人間として、「いちようの会」の皆さんの声をいかに次世代に伝えていくか? 情報発信のあり方や人権問題など考えさせ

## 済生会への信頼を感じた2日間

本部広報課（済生会広報実務研究会幹事） 河内淳史

ハンセン病は「らい菌」と呼ばれる細菌に感染することで皮膚や末梢神経障害を引き起こす病気です。開発途上国では毎年約20万人の新規患者がいますが、日本はほとんどいません。2001年と19年の国賠訴訟勝訴判決後も、ハンセン病に対する誤解や偏見・差別に苦しむ人がいます。

23（令和5）年に厚労省が実施したハンセン病問題に係る全国的な意識調査では「ハンセン病は遺伝する病気である」について、「そう思わない」と正答した者は63%。正しい医学知識について正答できるほどの浸透度が得られていないと検証しています。

今回の取材で回復者の皆さんは療養所での暮らしを語ってくれました。「なぜ初対面の私たちにそこまで話をしてくれるのか?」この旅行は大阪府済生会



一行は岡山・倉敷美観地区を訪れ大阪への帰路に着いた

対する信頼があったからだと感じました。 ましょう!

任看護師は「交流会は外国人と身近に接する機会が持てること、英語や他国に関する疑問を直接確認できることが良い点。こ



# 「はまマフ」が認知症の理解と啓発の一助に 地域とつながるきっかけにも

**ボランティア部  
で認知症マフ作り**  
〈神奈川〉  
横浜市六浦地域ケアプラザ  
済生記者  
山田和恵



筆者

活動する場の提供など、内容はさまざま。中でも小・中学生への学習支援、高齢者介護予防の取り組みと、ボランティア育成に特に力を入れています。ボランティア部は当施設のそうした地域活動の一つ。コロナ

当施設は市内に146館（令和6年9月現在）設置されている地域ケアプラザの一つで、高齢者や障害者、子育て世代など誰もが安心して暮らせるために活動している「地域の身近な福祉・保健の拠点」です。

筆者は地域活動・交流コーナーディネーターとして地域の福祉保健活動を支援しています。体操教室、子育てサロン、多職種連携カフェなどの自主事業の企画・運営や福祉・保健活動団体が



ボランティア部のメンバー。完成した認知症マフとともに

禍で、おうち時間が増え手芸が再ブームとなったこともあり、「地域の皆さんと何かを作りあげる喜びを分かち合い、その作品を施設等へ寄付したい」と筆者が呼びかけ、令和4年1月から活動を開始しました。現在の登録者は45人。60〜70代の方が多く、最高齢は83歳です。月に1回、90分の活動には毎回15〜20人が参加しています。特に独居の方からは「一人でテレビを見ていてもつまらない。人の役に立てるとうれい」という声もあり、大切な時間とな

## 認知症予防や子どもたちの交流にも

現在の主な活動内容は、つるし雛作りや藤飾り作り、そして認知症マフ作り。認知症マフはイギリス発祥のニット製品で、認知症患者の不安感を和らげるために活用されています。

認知症マフ作りを始めたきっかけは、令和5年4月、若草病院の堀内良子看護部長から当施設の佐藤章所長（前・若草病院医事課長）に認知症マフの制作依頼があったこと。当施設ボランティア部の存在を知り、「認知症の理解と啓発のために、認知症マフ作りの活動を広めたい。ぜひ一緒に取り組んでもらえませんか」と声をかけてもらいました。その後、堀内看護部長とデイケア担当の湊谷あい子看護師が当施設を来訪し、ボランティア部のメンバーに向けて認知症や認知症マフ作りについて説明してくれました。同年12月、ボランティア部で認知症マフ作りの活動を開始。まずはワークショップを開催し、本体や本体に取り付ける小物の作り方を皆で学びました。最初



手芸好きが集まるボランティア部。笑いの絶えない「手作り大好き人間」の居場所となっている

は編み図を参考に、見よう見まねで作っていましたが、回を重ねるうち、各自が好きな編み方でアイデア豊富なデザインのマフを作るようになってきました。「おもしろいね」「使う人の気持ち



交流会後にはその日の振り返りや情報交換を実施

人患者の受診増加に伴い、AI翻訳機、遠隔医療通訳・翻訳タブレットを導入しました。救急受付と医療相談窓口それぞれ1台ずつ配置し、日本語対応が困難な患者さんの問診や診察に使用。入院時

増えることを期待したい」と話します。現在は英語での開催ですが、今後は他言語での開催も検討しています。AI翻訳、多言語スタッフ、院内整備を進める

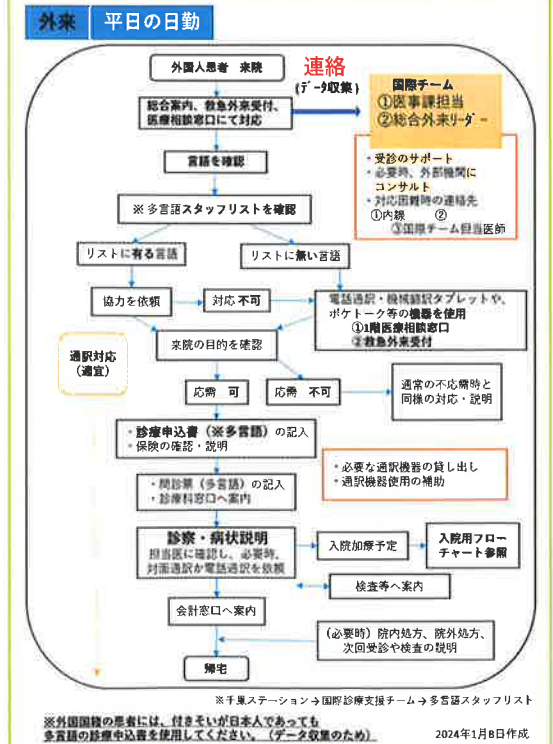


多言語対応スタッフ（左）が外国人患者さんの診察と栄養指導に同行

には病棟スタッフに貸し出し、日常のコミュニケーションに活用しています。また、外国人患者が来院すると外国人患者対応フローに沿って多言語対応スタッフに連絡が

入り通訳として同行するサポート体制も整えました。現在、多言語対応スタッフは14人で7カ国語への対応が可能になっています。昨年8月に定期受診のため来院していた外国人患者に、サポートについて尋ねると「初診時には言葉の壁があり不安だったが、サポートの介人により今では不安

も解消された。予約変更時にはメールで対応してもらえたことがよかった。サポート内容には非常に満足している」と話していました。今後は、引き続き院内整備を行ない外国人患者の受け入れ体制を強化すること、また、国際診療支援に関わる職員の教育や言語スキルアップにも貢献したいと考えています。院内整備が整えば、地域に住む外国人を対象とした健康相談事業を実現させ、将来的には済生会の国際連携事業の一つであるベトナム・ダナンがん病院との連携に参画し、外国の研修医を受け入れた



外国人患者対応フローは入院・外来のそれぞれ平日・休日4パターンを作成し院内で共有・運用



## 日本財団助成事業完了のお知らせ

この度、令和6年度のポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

記

事業名 令和6年度 検診機器の整備事業

助成金額 3,190万円

### 事業の内容

〔支部名〕	〔病院名〕	〔機器名〕
東京都済生会	中央病院	コンピュータX線断層撮影装置
和歌山県済生会	有田病院	生化学自動分析装置
広島県済生会	広島病院	生化学自動分析装置

完了年月日 令和6年12月2日



中央病院



有田病院



広島病院



関東学院六浦こども園の園児たち。毛糸の指編みで、マフ本体に取り付ける小物を制作する

ちを考えて作ると本当に楽しい！という声も。さらに、手芸は認知症予防のための「脳トレ」にもなります。「楽しみながら脳を鍛えているのよね」と、やる気がアップしている人もいます。

また、福祉教育の一環として以前から交流を行っていた六浦小学校や、地域の子ども支援事業として関わっていた関東学院六浦こども園にも認知症マフの紹介をしたところ、「子どもたちと地域との関わりにもなるのでぜひやりたい！」と小物作りに協力してくれることになりました。

ボランティア部で制作した本体と、子どもたちが作った小物をドッキングするのはボランティア部長である筆者の仕事。ボランティアの皆さんや子どもたち一人ひとりが心を込めて作っ

てくれたマフを「かわいい宝物」のように思いながら、温かい気持ちで作業しています。

そして令和6年7月2日、作ったマフを「はまマフ」と名付けて若草病院へ10個の寄贈を初めて行ないました（「済生」令和6年8月号掲載）。堀内看護部長がキラキラとうれしそうな表情で「とても幸せな気持ちになります」と受け取ってくれた姿に、利用者のみならずそのサポートをされている人々へも良い効果があるということを確信しました。

**マフ作り活動や養成講座で認知症の理解を広めたい**

マフ作りを始めてから約1年半。これまで合計約100個のマフを4施設へ寄贈してきました。まだまだ始まったばかりですが、済生会の関連施設や近隣の病院・施設等へ、より広く、はまマフを伝えていきたいと思っています。

なお、当施設所属の山元友起子生活支援コーディネーターとともに「認知症キャラバンメイト」として、近隣小・中学校の児童・生徒や教師・保護者を対象とした認知症サポーター養成

講座も開催しています。今後も、地域全体で温かい見守りができます。

るまちづくりを推進してまいります。



①② 認知症マフは円筒状で、内外にお手玉や小物が縫い付けられており、両端から手を入れられる ③ ボランティアさんの中には、贈物をほどこいてマフ本体を作る人も ④ 寄贈した認知症マフを使う若草病院の患者さん。不安があるとナースコールが頻回になる人が、認知症マフを渡すことでナースコールなしで過ごせていた例も ⑤ 色とりどりの「はまマフ」大集合！視覚的にも楽しい気持ちに



# 〈福岡〉大牟田医療福祉センターが初のフェアを開催



## 済生会フェア in 大牟田 ～医療と福祉の輪を広げよう～

炭谷理事長  
稲吉康治大牟田病院院長

病院ならではの企画によって医療や自身の健康について楽しく学んでいたが、老健大牟田ライフケア院催し企画では、福祉講演や福祉用具の展示・販売、介護食等の試食会を行ないました。また市内の小学生、幼稚園・保育園児を対象とした絵画コンクール（市教育委員会の後援）、近隣の幼稚園のお遊戯発表会、近隣高校ダンス部によるダンスステージなど、地域参加型の企画では多くの方に楽しんでいただきました。

二つに分かれたステージでは、特別記念講演として炭谷理事長による「済生会の目指すまちづくりの活動」についての講演に加え、プロシンガー・プロ奏者による生演奏会、マジックショーやものまねLIVE、太鼓衆「響」によるパフォーマンスなど、エンターテインメントいっぱいイベントで大盛り上がりでした。

日頃知ることのできなかった済生会の理念を知っていただき、医療福祉の現場、センターの取り組みに触れていただける機会となり嬉しく思います。これからも地域の中の病院として、選ばれる病院の使命を強く感じた1日でした。

（済生記者 松岡 健）

11月2日、大牟田医療福祉センター（大牟田病院、介護老人保健施設大牟田ライフケア院）で初の済生会フェアを開催しました。

台風21号が九州に接近する中、一時は開催中止も頭をよぎりましたが、会場を院内に変更し、1300人を超える来場者を迎え、盛況に終わりました。

地域の人々との交流や、医療・福祉について知ってもらうことを目的とし、「医療と福祉の輪を広げよう」をテーマに、幅広い年代層が楽しめる企画を用意しました。病院催し企画では、内視鏡操作体験やストレッチ体験・指導、薬剤師体験（スライムづくり）、骨密度・血管年齢測定や超音波検査体験、「世界糖尿病デー」企画など、

**骨密度・血管年齢測定等  
健康を学ぶ**

---

**福祉講演や  
ダンスステージも**





左から水橋氏、山城氏、金城氏、豊見里氏、高江洲氏



石碑には元々、人工のため池だったことも説明されている

業委託相談員・金城優氏は「教育と福祉の連携」、④北谷町相談支援事業 委託相談員・山城健児氏は「強度行動障害の支援」と「インクルーシブ社会」の実現に向けて求められることを報告しました。

続いて、済生会熊本福祉センター 児童発達支援センター 済生会なでしこ園・水橋さおり氏が児童発達支援センターの機能と役割を説明。発表後は地域が抱える福祉課題の解決に向けた方策やなでしこ園での取り組みについて意見交換が行なわれました。読谷村等3町村で未設置の児童発達支援センターへの二

11月23日には、かつて済生会那覇診療所があったとされる地を、炭谷理事長など本部職員が訪問。那覇市役所近くにある石碑には、昭和初期に人工のため池「仲島小堀」を埋め立て、1937(昭和12)年に済生会病院が建設されたことが記されていました。続いて那覇市歴史博物館にも訪れ、琉球王国時代から戦後のアメリカ統治時代を経て本土復帰に至る歴史に触れました。

**済生会診療所跡地などを訪問**



喜多氏

ボジウムで各分野の方々が福祉課題と接点を持つことができ、解決への新たな一歩を踏み出したのではないかと感想を述べました。

その高さがかえりました。シンポジウムに参加した済生会評議員の喜多悦子氏は「地域住民にとって福祉の問題は見えにくいことがある。今回のシン



**特集 沖縄県で初のシンポジウム**  
**誰一人取り残されない社会を目指して**  
**～ 障害者支援の課題とインクルーシブ社会～**

本部総合戦略課 旗手厚太郎



炭谷理事長

パネリストは4氏。①沖縄県中部圏域自立支援連絡会議 療育・教育部会会長・高江洲夢美氏は「中部圏域11圏域の課題」を、②読谷村相談支援事業 委託相談員・豊見里さやか氏は「医療的ケア児の支援体制整備」について、③嘉手納町相談支援事



古堅副村長

福祉関係者など155人が参加しました。

読谷村・古堅守副村長が石嶺傳實村長の挨拶を代読、炭谷茂理事長は基調講演でソーシャルインクルージョンの理念が求められる背景と済生会の取り組みを紹介しました。

パネルディスカッションでは



松原理事

の役割について考えました。

パネリストは4氏。①沖縄県中部圏域自立支援連絡会議 療育・教育部会会長・高江洲夢美氏は「中部圏域11圏域の課題」を、②読谷村相談支援事業 委託相談員・豊見里さやか氏は「医療的ケア児の支援体制整備」について、③嘉手納町相談支援事



津波古氏

備事業 中部圏域アドバイザーの津波古氏がコーディネーターを務め、「読谷村、嘉手納町、北谷町における障害者支援の現状と課題」をテーマに児童福祉法の改正、障害福祉サービス等報酬改定により、中核機能が求められる児童発達支援センター





済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。  
 無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。  
 だれも排除されないまちづくりを目指し、  
 全支部・施設が1600の事業を展開します。

## 支部単位の連携士養成

### 2回目は宇都宮で開催

#### 栃木県済生会

10月26・27日の2日間、宇都宮病院のみやのわホールで「済生会地域包括ケア連携士養成研修会」を開催。済生会職員のほか、まちづくりに関わる外部機関等からの参加を含め44人が受講、ファシリテーターが5人参加しました。  
 受講者は9月からeラーニング・テキストによる事前学習を各自行ない、



10月16日のオンライン研修を受講後、当日の対面研修に臨みました。

対面研修では、本部社会福祉・地域包括ケア課の鈴木孝尚課長心得が日本でのソーシャルインクルージョン進の歴史や、済生会地域包括ケア連携士の役割について解



終了後、参加者からは「医療福祉介護連携のみならず、住まい、就労、生活支援、教育など幅広い分野で多職種・多機関との連携や協働が必要だと改めて感じた」「課題を見出し、自分で何ができるか考え、自ら行動することが重要だと思った」

説きました。その後のグループワークでは、7グループに分かれて地域課題を抽出し、解決方法について検討。地域で活動を行なう参加者がそろい、多くの意見が出されました。



皆さんの仲間と出会えてよかった」などの肯定的な意見が多数聞かれました。  
 支部で開催した今回の研修会では「済生会のノウハウ」とその地域を知り尽くした専門職による意見が融合されることで、済生会地域包括ケア連携士の新しいあり方を創り出せたと思います。

(宇都宮病院 地域連携課 秋山綾香)

## 更生保護施設でワクチン接種 入所者の体調管理の一助に

#### 〈東京〉中央病院

11月28日、副院長1人、看護師長1人、MSW2人の計4人で新宿区百人町にある更生保護施設「斉修会」を訪問し、インフルエンザ集団予防接種を実施しました。  
 なでしこプラン事業として毎年11〜12月に行なっていて、今年で14回目。斉修会・敬和園・更新会の三つの更生保護施設の入所者が対象で、今回は6人が斉修会で予防接種を受けました。  
 更生保護施設の入所者さんは経済的基盤が脆弱である場合が



## 野宿生活者等予防接種事業 関係機関と顔の見える連携を

11月15日、なでしこプランとして「野宿生活者等インフルエンザ予防接種事業」を、当院が



多く、検診や医療機関の受診機会が乏しい状況にあります。当院のこの取り組みは「入所者さんの体調管理の一助になる」と施設職員からも好評です。

(社会福祉事業室 MSW 長谷川知美)

#### 〈大阪〉吹田病院

日ごろ医療支援をしている更生保護施設愛正会と難民支援団体RAFIQの支援対象者に向けて実施しました。  
 当日はそれぞれの支援者の付き添いのもと、合計10人が来院。注射前で緊張している人もいる中、MSW4人が検温をサポートし、島俊英院長が接種前の問



診、看護師とともに研修医3人が交代で注射を行ないました。  
 就労者には来院しにくい平日昼間の実施でしたが、当院が祝



日でも診療していることを案内するなど、待ち時間中は和やかに過ごしていただけたと思います。病院職員として感染予防を意識する貴重な機会であるとともに、関係機関との貴重なコミュニケーションの場にもなりました。

(福祉医療支援課 MSW 中村悠子)



# 〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院がフェアを開催



## 見て！来て！知って！龍ヶ崎済生会フェア2024 ～ここからつながる地域の輪～

11月17日、龍ヶ崎済生会病院敷地内で済生会フェアを開催しました。約1100人が来場しました。

開会の挨拶後、城ノ内中学校吹奏楽部の素敵な演奏とともにイベントがスタート。体験・測定・展示等数多くのコンテンツを用意し、来場者には市内にある社会福祉法人ゆっころら・就労継続支援B型花農場さんの花苗をプレゼントしました。

医療機関イベントでは王道の、測定コーナーをはじめ、健康教室や認知症マフのワークショップ、その他にもカップ麺等のCT画像を再構成した3D画像が見られたり、医療機器の動作を観察してみたり……職員たちの「これができたら楽しいだろうな」がたくさん詰まったものになりました。

スタンブラリー参加者には、院内の全職種の協力により作成した「お仕事リスト」と病院オリジナルのクリアファイルやエコバッグをプレゼントしました。

**職員たちの「楽しそう！」を詰めこんだフェア**

**クラウドファンディングを活用した産科病棟を紹介**

病院外の団体にも協力・参加していただき、緊急車両展示や飲食・雑貨のマルシェコーナーの設置、お薬相談、医療用ウィッグの展示なども行ないました。ある出店者から、近くの出店者との今後のつながりができたと聞き、来場者だけでなく参加者にも良い機会を提供することができて良かったと感じました。

2023年12月に行なった産科病棟改修の際にお世話になった近隣市町に後援をいただき、各市町のマスコットキャラクターたちがイベントに参加してくれました。お昼に行なわれたじゃんけん大会では、たくさんのお子が集まって大盛り上がり。勝ち抜いた方には、キャラクターたちから各市町のお菓子の詰め合わせがプレゼントされました。

来場者アンケートには「大人も楽しく参加できた」「心肺蘇生の講習は定期的に開催してほしい」「医療に興味をもつことができた」と嬉しいコメントが寄せられました。

「当院に初めて来た」という人や「こんなに混雑している病院は見たことがない」と驚く人、いつもは病院と関わりのない人もある人も一緒になって楽しむことができて本当に良かったと思います。

今回のイベント開催目的としていた付属棟のお披露目も地域との関係づくりも、医療職への興味・関心を高めることも、すべて叶えることができました。「病気の時にしか来ない場所」から、一歩地域の輪に入れてもらえるように感じたイベントでした。来年度以降もイベントを開催していきたいと思えます。

(済生記者 堀越琴美)





嘉門長蔵氏の命日（7月1日）には功績をたたえ「嘉門祭」が職員参加の下開かれている【上】。戦中の金属供出で嘉門夫妻銅像は国に回収され現在は台座が残されている【下】

間部へも宣伝販売に奮闘する夫妻の姿は、店員諸氏への激励ともなり業績は向上。各地での特約店増加、編立機の電気式への改良、台数増設、工場拡大など大量生産の基盤が整います。徐々に増加してきた同業者たちと組合を結成する頃

治政府による工場設立も始まり、近代的な工業化が進んでいました。明治維新後の貿易の興隆を目の当たりにしていた長蔵氏は、前途有望な繊維業に千載一遇のチャンスがあると考えます。1885（明治18）年、嘉門夫妻は入念な準備の末に手廻し式編立機数台を購入し、メリヤスのシャツや手袋、靴下の製造販売業に転身。長蔵氏34歳、コマ氏28歳の頃でした。

### 国産ニット販路拡大への献身

メリヤスとは現在のニット製品のことで、品質と生産量の双方を両立すべく、夫妻は連日徹夜をし、編立機の調整や工手養成などに力を注ぎました。しかし「資沢な輸入品」と思われていたニットは販路拡大に苦勞します。そこで夫妻は卸売販売店舗を御堂筋に新設するとともに、当時珍しかった「出張販売」に着手。風雪を厭わず山

	西暦（年）	和暦（年）	長蔵氏年齢	コマ氏年齢	日本史上での出来事	嘉門家出来事
幕末	1852	嘉永 5	1			8 / 8 長蔵氏・大阪阿波座に誕生
	1853	嘉永 6	2		ペリー来航	
	1858	安政 5	7	1		2 / 19 コマ氏・大阪堀江に誕生
	1867	慶応 3	16	9	大政奉還・坂本龍馬暗殺・王政復古の大号令・江戸幕府滅亡	
	1868	明治 元	17	10	鳥羽伏見の戦い・江戸無血開城・明治天皇即位・函館戦争開始	
明治維新 文明開化	1869	明治 2	18	11	明治天皇の東京遷都 旧幕府軍降伏（戊辰戦争終結） 版籍奉還 東京横浜間で電信開始	
	1873	明治 6	22	16		コマ氏と結婚・木灰仲買業開始
	1882	明治 15	31	25	渋沢栄一らの提唱で大阪に近代的設備を備えた大阪紡績会社（現・東洋紡）が設立	
	1885	明治 18	34	28	内閣制度創設	メリヤス製造業へ転身
	1888	明治 21	37	31		卸売販売店を御堂筋角に新設・出張販売開始
	1889	明治 22	38	32	大日本帝国憲法発布	

には、輸入品はニット市場において、かなり数を減らしていった。国内市場における国産品の勝利は、長蔵氏の念願でした。

後編では嘉門氏の国外進出、済生会への寄付経緯などを紹介します。 ※参考文献は後編に掲載します。



1924（大正13）年6月創刊の「済生」が発行100年を迎えました。「済生」のあゆみを紹介します。2016年に同じく100周年を迎えた大阪府済生会中津病院では、戦前の移転改築に当時100万円（※現代では約10億円に相当）もの寄付を為した篤志家、嘉門夫妻を称える「嘉門祭」を毎年開催しています。夫妻はどのようにして一代で財を築き、尊い寄付に至ったのか。済生会の歴史に燦然と名を残す嘉門夫妻の物語を、2回に渡りご紹介します。（株）白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史



嘉門長蔵氏・コマ氏 「済生」1933（昭和8）年7月号

大量の木灰を載せた荷車を引く長蔵氏と、それを後ろから押すコマ氏。自動車普及前のこの時代、集めるだけでも大変な木灰が、時には事故で水浸しになるこ



嘉門夫妻を取り上げた新聞の切り抜き（中津病院嘉門記念室に所蔵・展示）

### 荷車で木灰を運ぶ 苦難の日々

二人が生まれたのは幕末の大阪。成人前、「長蔵氏は宮相撲

### 嘉門夫妻物語【前編】

の大関を務めるほど頑強だった「コマ氏は寺子屋で勉学に励んでいた」などの記録が残っています。



1935（昭和10）年10月に改築された大阪府病院（現・中津病院）【上】。敷地内に建てられた嘉門夫妻の等身大銅像【下】。「済生」1935（昭和10）年11月号

とさえありました。しかし、「感謝報恩のため働かねばならぬ」という信念を持っていた長蔵氏は、コマ氏と共に努力研鑽の日々を重ねていきました。「左ページ年表を参照」

### 文明開化に沸く大阪

この頃の大阪は開港と共に舗



中津病院の嘉門記念室。次号では嘉門夫妻が愛用したおひつを紹介し

※戦前基準の企業物価指数を基に算出（日本銀行Webより）





2025年  
下 期

## CALENDAR★なでしこ写真

## 入選 のことば

2025年  
上 期

済生会カレンダーのなでしこ写真は2年に1回募集しています。2025年のカレンダー写真は2023年5～9月に募集。35件の応募の中から、山口地域ケアセンターの済生記者・楊玉華さん(上期)と(大分)日田病院の看護師・川端佳織さん(下期)の作品が選ばれました。

この写真はナデシコの花を患者さん、包み込む手を済生会の職員と私なりにイメージしています。そして、ナデシコの花は地面にしっかりと根を張った状態で



川端佳織さん

カレンダー写真応募のきっかけは6年前に勤務していた化学療法室でのある患者さんとの出会いです。その患者さんは治療室に貼ってあったカレンダーに書かれた済生会の事業の精神を表す「撫子の歌」とご自身を重ね、「こうして治療を受けられる事があるがたい」と涙していました。

その時、済生会の理念がこのように患者さんに届いているのだと実感しました。何気なく目にしてきたカレンダーを身近に感じ、応募したいと決意しました。今回で3回目の応募、入選の通知を受けた時は驚きと嬉しさと胸がいっぱいになりました。

### ★★★生命を包み込む温かい手

〈大分〉日田病院 看護師 川端佳織

この度はたくさんの方から私の写真を選んでいただき、ありがとうございます。毎年選ばれる作品はプロレベルのものばかりで、広報業務を担当している私も、写真の構図などを勉強させていただいています。

家でもナデシコを育てたいのですが、園芸のことは何も知らず、とても自信がありません。なので、子どもと公園などへ行った時に、ナデシコ探しをするのを楽しみにしています。撮影した日は初夏6月ごろ、子どもを連れて訪れた地元の動物園敷地内の片隅に、ピンクと真っ赤なナデシコが可憐に咲いていました。思わず撮影しようとしたところ、同じくナデシコの彩りに惹かれた蜂も寄ってきたの



楊玉華さん(右)とご家族

### ★★★特別な存在

山口地域ケアセンター 済生記者 楊 玉華

あまり目立たないナデシコですが、済生会人としては特別な存在です。今後もナデシコとの出会いを楽しみにしています。

※実は「蜂」ではなく、蛾の仲間である「クロスキバホウジャク」だそうです。ちょっと違和感があったのでこの感想文を執筆時点で調べてやっと分かりました(スッキリしました)。





Text: みやじまなおみ

Photos: 安友康博

Styling: 平松正啓 (Y's C)

Hair & Make-up: 加藤恭子 (Luana)

## 格闘技の猛練習で肉体もひと回り大きく！ 本物の迫力に必要なのは相手との対話

主人公・鈴木青葉役のオフア  
ーを受け、すぐに総合格闘技の  
稽古を始めた木村さん。「格闘  
技は未経験でしたが、アクシヨ  
ンの段取りや技の型はダンスと  
通じるところがあり、覚えるの  
は早かったです。監修してくだ  
さる現役プロ選手から「今の技  
はきれいにいったね」と言っ  
ていただいたときは自信につな

がりました！」  
稽古とともに肉体改造も開始。  
約3カ月で服がワンサイズ大き  
くなり、衣装さんを驚かせたと  
いうエピソードも。今では技を  
極めたときの主人公の気持ちま  
で理解できるようになったと話  
す。  
「ただ、本物の試合に近づけよ  
うとお互いに本気でぶつかり合

い、呼吸や間合  
いが合わない  
ケガをする危険  
もあります。そ  
こで大事にして  
いるのが相手との対話です。最  
初はアクションの手が合わず体  
が当たったりしていましたが、  
雑談しながら相手を知り、距  
離が縮まるにつれ動きがピタ  
ッとハマるようになってしまし  
た」

そんな木村さんの仕事に対す  
るマイルールは、「楽しむ」こと。  
「基本的に自分が楽しんでいな  
いと、何事もうまくいきませ  
ん。現場に行くまでの道のり  
でも共演者やスタッフさんと  
たくさん話して、自分自身の  
モチベーションを高めて撮影  
に臨みます。これからも楽し  
みながら演技の幅を広げ、お  
芝居でもさらに成長した姿を  
お見せしたいです！」

きむら・けいと 1999年生まれ、東京都出身。9歳でダンススクール  
EXPG STUDIOに入校。三代目J SOUL BROTHERSなどのサポートダン  
サーとして経験を積み、2016年、ダンス&ボーカルグループ「FANTA  
STICS」を結成。18年、『OVER DRIVE』でメジャーデビュー。パフォー  
マーとしてステージに立つ傍ら、近年、『飴色パラドックス』『さっちゃん、  
僕は。』で主演を務め、さらにレディズビジュアルが話題となった『顔  
に泥を塗る』など、俳優としても頭角を現しマルチに活躍している。



### ドラマイズム「レッドブルー」

原作はプロの格闘家も愛読する人気MMA（総合格闘技）漫画「レッドブルー」。日陰者  
の道歩んできた根暗でひ弱な高校生・鈴木青葉が、隣のクラスで格闘技界注目のスー  
パースター・赤沢拳心の発したひと言を許せず、「一発殴りたい」一心でMMA甲子園に  
出場し、優勝を目指す物語。強者ぞろいの選手が待ち受ける中、人並外れた観察力と記  
憶力を武器に、闘いに挑んでいく。

■原作: 波切敦「レッドブルー」(小学館「週刊少年サンデー」連載中)

■脚本: たかせしゅうほう、木村暉、目黒啓太 ■監督: 林隆行、古澤健

■出演: 木村慧人 (FANTASTICS)、長谷川慎 (THE RAMPAGE)、椿泰我 (IMP.)、  
佐野岳 / 笠松将ほか

2024年12月17日(火)からMBS/TBSで放送中

# 慧人

# 木村

FANTASTICSの

パフォーマーと並行し、

木村慧人さんが次に演じるのは、

MMA（総合格闘技）に

飛び込む高校生。

パフォーマーがベースの

木村さんならではの

鮮やかなアクションが

見どころの一つです。

初めての格闘シーンに

どう臨んだのか、

話を聞きました。



Vol. 176

# KEITO KIMURA



# 口福につぼん

吉井省一



済生会の「病院・施設」がある  
県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

滋賀県と聞いて、皆さんの頭にまず浮かぶのは、琵琶湖ではないでしょうか。中心に琵琶湖がデンと構えていて、その淵？に県民が住んでいるイメージがあります。実は滋賀県に占める琵琶湖の面積は六分の一ほど。観る場所によって美しさが変化するため、琵琶湖八景という景勝地にも恵まれています。もちろん「琵琶湖周航の歌」という名曲だってあります。

こうした風光明媚な滋賀県ですが、最新の平均寿命ランキングで、男性が第1位、女性が第2位という隠れ長寿県であることは意外と知られていません。そんな滋賀県で今紹介するのは歴史ある味「鮎寿し」です。



固有種ニゴロブナを蔵持ち菌で発酵熟成  
琵琶湖の湖畔、宿場町の風情が今なお残る海津の町で、天明



「魚治」の美味を琵琶湖の借景とともに堪能できる料亭「湖里庵」は一日一組限定で宿泊もできる(上)。240年以上の歴史ある「鮎寿し」を心ゆくまで味わいたい

## 88 鮎寿し本漬

### 《魚治》

滋賀県高島市

4(1784)年に創業した老舗「魚治」。現存する最古の寿司と言われている「鮎寿し」は、琵琶湖でしか取れない希少な固有種ニゴロブナを塩漬にしてから、炊いたご飯を重ね漬けて乳酸菌で発酵熟成させることから生まれた美味。魚の保存方法のひとつとして、古くから近江地方に伝えられてきた郷土食です。昔は家庭でも漬けていて、お正月などにお客様にふるまっていたそう。各家庭に棲む乳酸

菌は「蔵持ち菌」と呼ばれ、味の違いはこれによるとのこと。魚治もこの創業以来の蔵持ち菌を何より大切にしている。鮎寿しを漬けてから見守ることを「守り」と呼び、蔵には家族以外は決して入れないとか。今回は鮎寿し本来の「本漬」ですが、独特な香りが苦手な方には「甘露漬」も人気です。お店の近くにあるのが、魚治が「鮎寿しの育ったこの地で鮎寿しを堪能していただきたい」と開いた料亭「湖里庵」。魚治の鮎寿しをこよなく愛した文豪・遠藤周作により命名されました。



冬の寒さが鮎寿しをより美味しくさせる。樽の水を変えたり、重石の調整など「守り」の仕事はとても重要

こちらでは琵琶湖産の素材を使った数々のお料理が楽しめます。実は、この「湖里庵」は2018年の台風21号で全壊してしまいました。しかし、本店の鮎寿しの蔵は無事残り、そこから再出発して現在は素敵な佇まいのお店が復活し、全国からたくさんのお客様が訪れています。

吟醸酒に合わせたり  
お茶漬けにしても格別

「本漬」は、春に卵を抱えたニ



鮎寿しならではの独特な香りが苦手な方には、本漬からご飯を取り除き粕漬けにした、少し甘みのある「甘露漬」(左)もある。鮎寿しを使ったお茶漬け(右)はコクのある酸味とさっぱりした味わいが人気を呼んでいる



仕込み蔵に棲みついている「蔵持ち菌」の力を借り、約2年という長い熟成期間を経て、旨みが増していく「鮎寿し」。代々受け継がれてきた秘伝の味は、令和の食通たちもうならせる美味

ゴロブナを塩漬けにして3カ月、土用の時期にご飯に漬けてから、二冬かけてじっくり発酵熟成させていきます。食べ方は、洗わずに魚の身に

付いたご飯を軽く落として、そのままいただきます。お店の方からお勧めは、一切れと同時に吟醸酒を口に含む食べ方。この瞬間の芳醇で豊かな味わいは



古き宿場町海津にある「魚治」本店。本 moreover、若あゆ、いさざ、ごりなどの佃煮も美味しい

絶品。噛むほどにコクのある酸味と極上のチーズを連想させる旨みが融合してお酒が進みます。もちろん、お茶漬けにしてもとても美味。二切れほどを炊きたてのご飯に載せ、軽く塩をふって、熱いお茶をかけていただきます。私は抹茶塩をかけましたが、これがまたおすすめ。また、二、三切れをお椀に入れてお塩を加えると美味なるお吸い物に。細かく刻んであさつきを混ぜれば、これも上品な一品に仕上がります。さらに、アンチョビ代わりにパスタに加えて、洋風仕立てにしても美味しくいただけます。時間をかけて発酵熟成させた旨みは、日本の食文化そのもの。



鮎寿し 本漬 (ハーフサイズ)  
[26~27cmサイズのハーフサイズ]  
3,240円(税込・送料別) 賞味期限……30日

お取り寄せ・お問い合わせは

魚治(本店)  
〒520-1811 滋賀県高島市マキノ町海津2304  
TEL: 0740-28-1011 (営業時間: 9:00 ~ 18:00)  
ホームページ: <https://uojii.co.jp>

奈良時代にまでさかのぼる、歴史に磨かれた美味をこの機会にぜひ召し上がってみてください。





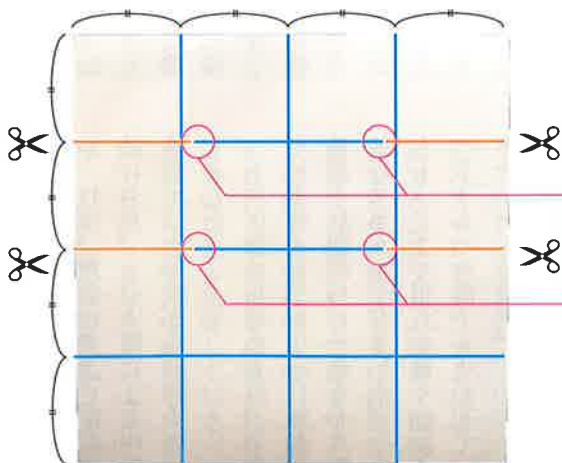
# メッセージをおくるう ねこのハートステッキ

紙ストローを貼らずに  
メッセージカードとして  
プレゼントにしても  
すてき!!

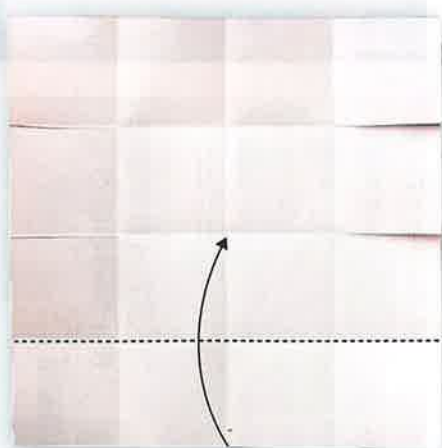


--- 山折り  
- - - 谷折り  
↺ 裏返す

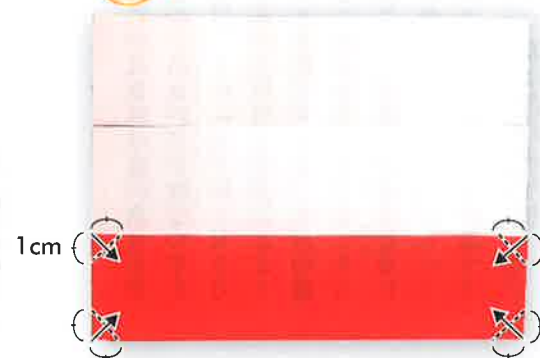
1 図のように折り目を付けて、  
4カ所に切りこみを入れる



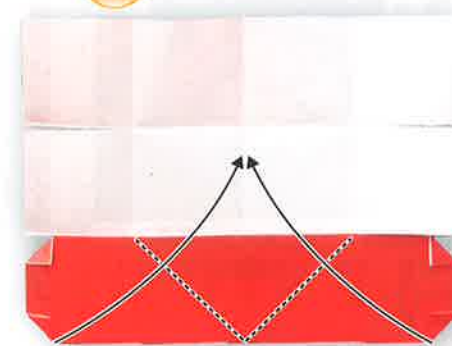
2 下の辺を折り上げる



3 図のように角を点線で折る



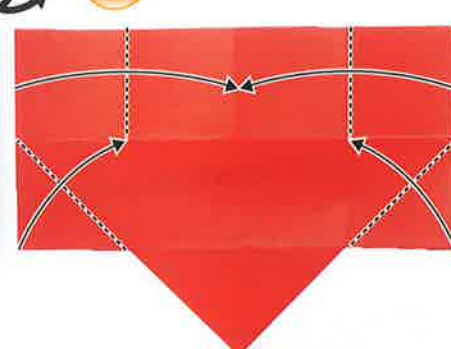
4 中心にあわせて折る



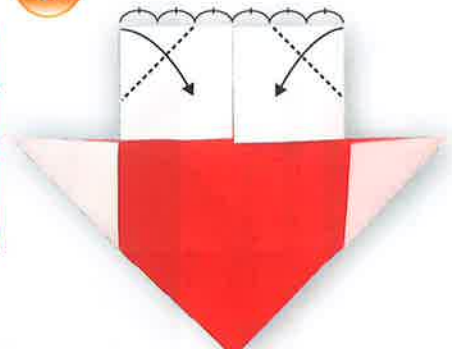
5 裏返す



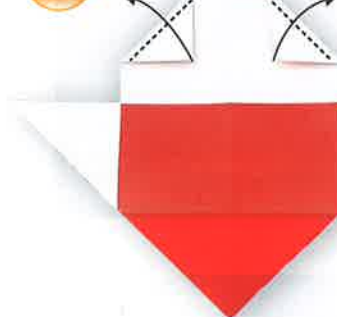
6 図のように点線で折る



7 上の角を折る



8 点線で折る



9 上の辺を下に折る



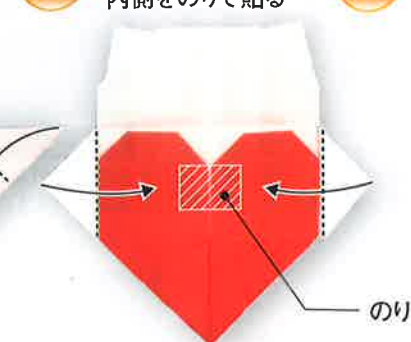
10 裏返す



11 左右の角を折る



12 点線で折り、ハートの内側をのりで貼る



13 丸シールやペンなどで顔やメッセージを描き、裏に紙ストローを貼って完成



お部屋にかざっても  
かわいいよ♡  
(ペン立て、小物入れなど)



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー







静岡済生会総合病院でグレードA(超緊急帝王切開)シミュレーションを実施。母子の命を守るために日々、「備え」をしています。詳細は57ページをご覧ください。

# topics

## ベトナムからの研修医師 専門的スキルを取得

福井県済生会病院

11月6〜29日の約1カ月間、医師研修の支援の一環でベトナム・ダナンがん病院からチャン・ホン・フック、肝胆臓外科医師とチュオン・ゴック・タン放射線治療医師の2人を受け入れました。

ダナンがん病院と済生会は2015年に「ヘルスケア連携事業に関する包括覚書」を締



結。以降、医師の派遣・研修が続けられ、コロナ禍による中断を経て、今年度から研修を再開しました。

当院医師の指導のもと、手術や検査等の見学を中心に放射線治療や肝胆臓外科治療など専門的なスキルを学びました。2人とも「ここで得た知識や経験をベトナムの病院でも生かしていきたい」と意欲的でした。

福井県の観光名所や日本の文化についても体験。また、11月18日には福井県副知事にも表敬訪問し、研修内容の報告等を行いました。

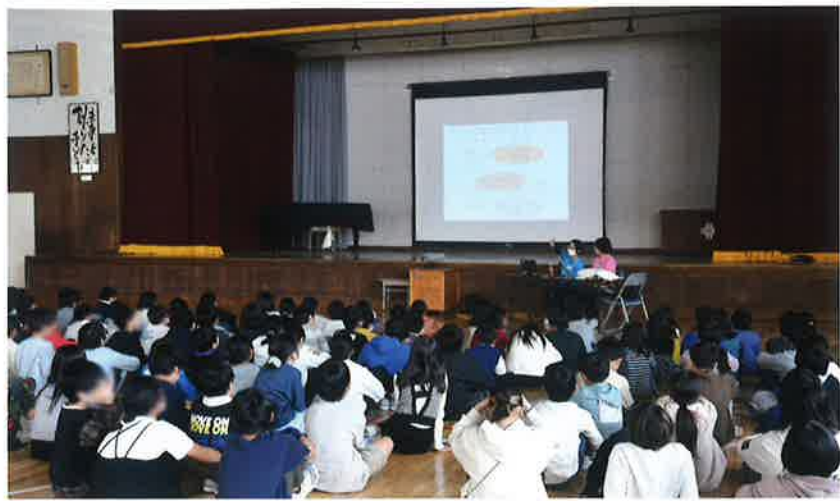
(総務・企画課 山村健太) ★今回の経験をベトナムでも生かしていただき、今後のご活躍を祈っております。

(本部広報課 杉山菜央)

新潟病院

## 「いのちの授業」を対面形式で再開

11月14日、新潟市立五十嵐小学校の5年生約120人と保護者を対象に「いのちの授業」を実施しました。これは当院の地域貢献事業の一つで、コロナ禍ではリモートで開催していま



したが、今年度から現地開催を再開しました。授業の前半はスライドを用いて、助産師の仕事、生命の始まりと誕生などについて講義。生命の尊さ、自分や他人を大切に必要性を伝えました。講義後は大勢の児童から小学生らしい率直な疑問・質問をもらいました。後半は赤ちゃんのお人形を抱っこしたり、妊娠月ごとに変化する子宮と胎児の模型に触れたり、妊婦体験をしたりしてもらいました。

皆さん興味津々で真剣に授業を受けてくれ、現地開催での醍醐味を実感できる機会となりました。

(A4病棟 助産師 山岸史佳・吉田有希)

## 新潟で冬感染症予防

11月14・15日に感染症予防の勉強会を実施し、利用者さん10人と職員4人が参加しました。

冬場は感染症が流行しやすいため、注意喚起と予防法の学習を目的として、大湊愛子看護師が指導を行いました。まずは感染症の種類や感染経路について学習。その後、手洗



いチェックカードで手洗いの状態を確認しました。入念に手を洗ってチェックカードに臨むものの、ブラックライトで洗い残しが明らかに。結果にガッカリする方もいました。

洗い残しは手形メモに残し、自分の洗い癖を確認。「指の先に残っているね」と気付きの声があがり、丁寧に手洗いすることの重要性を改めて理解したようです。

(済生記者 小野塚真理子)

## 岡山済生会総合病院 被害者の心のケアに尽力

11月25日、岡山県警察本部県民広報課から当院の林原麻衣子公認心理師・臨床心理士に感謝状が贈られました。

林原さんは、2018年から岡山県警察の「犯罪被害者等カウンセリングアドバイザー」として委嘱され、犯罪や交通事故の被害者やそのご家族の心のケアに尽力。また、市民や警察官に向けて被害者支援に関する講義を担当するなど、多くの実績を重ねてきたことが評価されました。

当院では心療科を中心に



PTSDやトラウマに関する心理カウンセリングを提供。林原さんは県公認心理師・臨床心理士協会の被害者支援関連でも重要な役割を担っています。

今回の受賞について、林原さんは「さまざまな経験を積み機会をいただき感謝している。今後もさらに努力を重ねていきたい」と語りました。

(済生記者 高畑貴子)



災害対応力のさらなる向上を目指して

長崎病院



11月23日、当院の災害時対応訓練を九州・沖縄ブロックDMAT訓練の一環として実施しました。当日は当院管理棟1階研修室と県庁災害調整本部を舞台に、当院職員43人に加え、

日本DMATや長崎DMAT、さらに佐賀・熊本DMAT支援チームが参加。また、外部コントローラーとして県外の2人の医師に参加していただきました。大雨・台風被害で診療棟と管理棟の間を流れる西山川が氾濫し、当院が浸水・停電するという初めての想定のもと、災害対策本部の迅速な設置や病院行動評価を実施。午前中の訓練は当院

職員がメインで、午後の訓練はDMAT隊員で改めて現状分析や検討を行いました。訓練を通じて、迅速な情報伝達や外部支援との連携の重要性を再認識しました。

（人事課係長 DMAT隊員 河野太祐）

緊張の初マッチング 初年度からフルマッチ！

（北海道）小樽病院

10月24日、医師臨床研修マッチング協議会の2024年度マッチング結果が発表されました。来年度から基幹型臨床研修を開始する当院は、募集定員2人に対して2人がマッチし、初年度から見事フルマッチを達成しました。

当日の発表時刻、同協議会ホームページはアクセス集中でなかなかつながらず、やきもきしましたが、定員通り2人を確保できたことが分かったと、総務課では拍手と歓声が上がりました。広報室では事前の打ち合わせ通り、すぐに緊急速報（院内広報誌）を発行しました。基幹型研修病院指定への指揮を執った和田卓郎病院長は喜び



昨年4月に初参加した北海道臨床研修病院合同プレゼンテーション

もひとしお。「良い研修を提供して、今後も継続的に来てもらうことが大事」と決意を新たにしていました。

（済生記者 定 淳志）

こんなに汚れが……

（滋賀）特養淡海荘

11月19日に家族会主催で「感染手洗い研修」を当荘で開催しました。講師として滋賀県病院の感染管理認定看護師・谷慶子さんを招き、ご家族約20人・職員約10人が手洗いの大切さや感染予防について学びました。



研修では、病院から借りたブラックライトを用いて手洗い後の汚れの付着をそれぞれ目で確認。「いつもよりしっかりと洗ったのにこんなに汚れが残っている」という悲鳴や、「爪を伸ばさない方が良いということがよく分かった」といった声が聞かれました。その後の質問コー

ナーではご家族も積極的に質問していました。感染症の流行期を迎え、今回学んだことを生かしウイルスを「持ち込まない、広げない、持ち出さない」ように基本的な手洗いをしっかりと行なっていきます。

（生活相談員 遠藤百虹）



出張オレンジカフェで和やかな交流

（茨城）地域包括支援センター 済生会かみす 神栖済生会病院

11月8日、地域包括支援センター済生会かみすによる「出張オレンジカフェかみす」と、神栖済生会病院地域医療連携室による健康相談を同時開催しました。

キッチンカーの協力のもとオープンカフェ形式で実施。好天に恵まれ、お昼を挟んで2時間ほど軽食をつまみながら介護経験者の話を聞いたり、脳トレ体験で心身をほぐしたりと参加者とスタッフ合わせて24人が和やかに交流しました。

この日、近隣の住民から「認知症の父親を連れて来たい」との相談があり、スタッフから声かけの方法をアドバイスして参加してもらうことに。親子で脳トレ体験を体験し、笑顔を交わ



出張オレンジカフェで和やかな交流

（福井）特養聖和園

10月16日、当園各棟のホールで「お楽しみ昼食会」を開催しました。改修工事で厨房が使えず通常の食事提供が難しいところ、栄養管理グループが工夫を凝らし、利用者さん約140人がワクワクするようなメニューを用意しました。

工事中でも楽しく！ お楽しみ昼食会で笑顔に

（福井）特養聖和園

特養東グループでは4種のおにぎりの具からお好みをも二つ選んで握って提供。特養南グループではバーベキュー大会が開かれ、職員が焼きそばやお肉を焼き、アツアツをお届けしました。シ



カップラーメン選びも楽しんで

ョートステイグループでは、利用者さんにカリーの具材を切る手伝いをしてもらい、一緒に調理を楽しみました。

各デイサービスでも外食やお弁当、手作りみそ汁など、趣向を凝らした昼食が振る舞われ、笑顔があふれる一日となりました。

（済生記者 野尻 宗）



〈愛媛〉西条病院  
永年勤続職員18人を表彰

10月24日、令和6年度永年勤続者表彰と記念品の贈呈式が行なわれました。今年度は2月に済生会学会・総会で表彰を受けましたが、当院では毎年10月に院内での表彰式を行なっています。



今年度は、30年表彰6人・20年表彰4人・10年表彰8人の計18人が表彰されました。石井博院長は長年の勤務への労いと感謝の祝辞、そして今後の活躍を期待する言葉を送り、表彰者一人ひとりに記念品を渡しました。

表彰者からは、表彰のお礼とともに「次の10年に向けての決意」や「今後も地域の医療を担う決意」が述べられ、気の引き締まる表彰式となりました。

（総務課 大仲間）

山口地域ケアセンター

潮谷会長が山口で講演

11月21日、済生会・潮谷義子会長が山口市で開催された中・四国身体障害者施設職員研修大会に講師として登壇し、記念講演を行ないました。

テーマは「共に生きる社会づくり」を願ってーいのちの価値は同じー。潮谷会長は、ご自身の経験と日本の障害福祉の歴史を振り返りながら、社会構造の変化や人材不足といった現代の課題について言及しました。また、スペシャルオリンピックス(SO)の活動や熊本県知事時代に掲げたユニバーサルデザインについて言及しました。

山形済生病院  
地域住民の交流の場

10月11日、イオン山形北店で「行なわれた大開店祭に合わせ、健康講座を開催しました。6回目となる今回は、管理栄養士の会田弓子係長による食生活に関する講話と、健康増進センター

ザインの理念を紹介し、障害の有無にかかわらず誰もが共に生きる社会の実現を強調。済生会が推進するソーシャルインクルージョンの重要性にも触れ「障害についての考え方を換え、社会全体でギアチェンジを図る必要がある」と訴えました。

（済生記者 楊 玉華）



美しい音色が響いた  
ロビーコンサート

12月3日、日本フィルハーモニー交響楽団奏者による弦楽四重奏の演奏会を外来ホールで開催しました。

（佐賀）唐津病院

（医療福祉相談室 工藤綾女）

振り返るきっかけになったと思います。また、健康体操ではご近所の方と一緒に参加している方もいて、明るい笑い声が聞かれました。

済生会を身近に感じてもらうにつつ、地域住民同士の交流や健康なまちづくりに貢献できたのではないかと思います。

アンコールの「故郷」では合唱する場面も。患者さんから「聴く機会がないからよかった」「治療がんばれそう」という声があり、優雅で心温まるひとときを過ごしました。

（済生記者 相島蘭香）

富山病院

複数の問題を抱えた  
生活困窮者の支援を検討

11月20日、当院研修ホールで生活困窮者支援に関する検討会を開催しました。

この検討会は、当院の生活困窮者支援に関する取り組みを周知することを目的に、毎年開催しています。院外からケアマネジャーや保健師など22人の参加を含む40人の参加がありました。



検討会では当院の取り組み紹介と事例発表の後、院内の看護師、MSWも交えてグループワークを行ないました。生活困窮者は経済的な困窮だけでなく複数の問題を抱えていることも多く、介入が非常に困難です。入院によって問題が顕在化し、支援を進めるきっかけとなることも。参加者からは「ぜひ相談したい。頼りにしています」との声が上がり、当院への期待の高さがうかがえました。

（医療福祉相談室 中川妙子）



めぐみの富樫勇作・健康運動指導士による健康体操を行ないました。当日は30人近くの来場者があり、会場隣のフードコートから参加する方も多数いました。講話を聞きながら熱心にメモをとる方もいて、皆さんが食生活を





### ユニクロで健康相談会 体組成計検査が好評

〔愛媛〕今治病院

ユニクロ今治店で10月18日、健康相談会を実施しました。5回目の今回は貧血・骨密度の検査に加え、体組成計の検査も初めて行ないました。

当日は当院職員11人で現地に outgoing、66人の来場者がありました。ユニクロのスタッフも定期的に呼び込みに協力してくれ、スタッフと顔なじみの方と談笑しながら健康相談を実施し、筆者自身も楽しく参加することができました。

体組成計は筋肉量や基礎代謝



量、体脂肪率など細かな内容を検査できるため、検査をした方が検査結果をジッと見ているのが印象的で、これからもさまざまなイベントで活躍してくれる検査だと感じました。

〔済生記者 村上景助〕

### 院内認定看護師の証

岡山済生会総合病院

当院では「院内認定看護師」の証として、なでしこをモチーフにしたバッジを作成し、今年度から使用しています。

看護部では看護の専門分野の知識や技術を段階的に習得し、実践・指導に生かせる看護師の



育成を目指し、院内認定制度を設けています。2016年に化学療法分野での認定がスタートし、抗がん薬の投与管理やCVポート管理を実践できる看護師を育成してきました。これまでに133人が認定され、現在98人が現場で活躍しています。

研修を修了した看護師からは「根拠と自信を持って患者さんに対応できる」「仕事へのモチベーションが上がった」といった声があり、患者さんからも「看護師が注意深く確認をしてくれるので安心」「医師を待つ時間が解消された」と好評です。

〔看護部長 三上由美〕

### 新人看護師が身体拘束を考える研修

〔石川〕金沢病院

10月24日、看護部認知症ケアリンクナース委員会が中心となり、新人看護師16人を対象に身体拘束に関する研修を行ないました。

身体拘束の三原則、身体拘束による弊害、尊厳を守るためのケアの提供など、



後、受講者が患者役となり、実際に拘束衣の着用、四肢の拘束、車椅子に乗車し拘束ベルトを着用するなどの体験を行ないました。

グループワークでは、受講者から「身体拘束は短時間の体験だけでも自由が奪われてとても苦痛だった」「チーム内で拘束しない方法を検討していきたい」などの意見が出て、身体拘束最小化に向けて取り組もうと

### 看護師・NA16人が おむつマイスターに

〔東京〕中央病院

10月から11月にかけて、看護師やナーシングアシスタント（NA）を対象とした「おむつマイスター研修」が実施されました。

この研修では、おむつの選び方や当て方についての講義の後、グループワークを通じて参加者同士で実際の困難事例の共有も行ないました。また、2人1組



でマネキンを使用し、正しいおむつの装着方法を実践して学びました。

研修は職種ごとに2日間かけて行なわれ、看護師10人とNA6人が参加しました。最終日には筆記試験と実技試験を実施し、参加者全員が合格。後日修了証書と修了バッジが授与されました。

〔済生記者 鈴木香純〕

### 静岡医療福祉センター ライトホーム

### マッサージで 癒やされませんか？

12月1日、静岡県総合社会福

社会館シズウェルでビジョンサポート機器展・相談会 in 静岡が行なわれました。

この催しは視覚に障害のある方たちを対象に福祉用具の紹介、盲導犬体験、専門職による個別相談が行なわれます。その中で盲人ホームの当施設はマッサージ体験ブースを出展しました。



あん摩マッサージ指圧師の資格を持つ指導員と研修生の3人が、ブースを訪れた38人の方々にマッサージを実施。体験した方からは「気持ちよかった」「ぜひライトホームで施術を受けたい」との感想をもらいました。当施設を知ってもらい利用につながるいい機会となりました。

〔済生記者 伊藤昌代〕



〔新潟〕 特養長和園  
eスポーツ体験会で  
太鼓をたたき健康に



10月18日、当園の介護予防教室でeスポーツ体験会を実施しました。これは三条市が推進する「三条市eスポーツプロジェクト」の一環で、高齢者のいきがいくくりと健康対策の取り組みとして10月から12月までの期間、月1回開催しています。初回の今回は、12人が参加し「太鼓をたたきリズムゲーム」を体験。三条市から委託を受けた専門スタッフの丁寧な指導のもと、ゲームに挑戦しました。一見シンプルながら、実は

タイミングが難しいこのゲーム。初めての方々も最初は苦戦しましたが、回数を重ねるうちに笑顔で楽しむ姿が見られました。

この体験会を通じて、皆さんが楽しみながら認知症予防に取り組みることができました。また新たな挑戦がいきがいくくりにつながることも期待されています。(済生記者 布施優子)

福井県済生会病院  
世界初！ 新田眼科部長が  
SLT研究成果を発表

当院眼科部長・新田耕治医師が主導した多施設共同研究により、未治療の正常眼圧緑内障患者に対する選択的レーザー線維柱帯形成術（SLT）の効果と安全性が確認され、その成果が昨年4月に英国の学術誌で発表されました。

日本では40歳以上の20人に1人が緑内障を発症。失明のリスクもあるため、早期の治療が重要です。患者さんの7割以上が正常眼圧であり、従来は点眼薬による眼圧管理が主流でした。しかし、毎日の点眼が負担となり、自己中断のリスクや点眼薬の副作用に悩む患者さんも多



くいました。SLTは1回のレーザー治療で数年間眼圧を低下させることが可能で、欧米では広く一般化されています。新田医師は「さらに多くの施設で実施可能となり、患者さんの選択肢が増えれば」と話しました。(済生記者 田中一弥)

2024年度全国済生会診療放射線技師長会プロック長会議が11月23日に〔茨城〕水戸済生会総合病院で開催され、北海

全国済生会診療放射線  
技師長会  
事業について議論白熱

ました。今後も地域の「あし」を守るリハビリテーションを提供していきます。(リハビリテーション室 上村龍輝)



道から九州までのプロック長・役員の9人が参加しました。会議では今年度事業計画の進捗状況確認と各プロックからの報告があり、今後の事業について熱い議論が交わされました。特に24年度中に発行予定の冊子「済生会の力」については、済生会本部広報課と共同して作成しており、副題の検討や原稿の依頼先選定等、一般の方にも

診療放射線技師の仕事を理解してもらえ内容になるよう議論が白熱しました。タスク・シフト/シェアの推進については3月8日に済生会本部で開催される学術総会で、各支部の取り組み状況を多数の施設から発表してもらい、情報



運転シミュレーターによる  
運転再開支援を開始

〔熊本〕みすみ病院

共有することを確認しました。(副会長/北海道・小樽病院 広報室長 松尾寛志) クラウドファンディングを活用して導入した運転シミュレーターによる運転再開支援を8月から開始しています。運転再開支援では、主に脳血管疾患既往の患者さんで自動車運転再開を希望する方を対象に、運転に関する評価や訓練を実施。従来の神経心理的検査による評価と比較して、運転シミュレーターでは運転操作の技能確認、運転に必要な注意機能や情報処理能力について評価・訓練ができるようになりました。開始から5カ月で延べ15人を支援し、7人が合格して自動車運転の再開に至っています。患者さんからは「リアルな運転を体験できるため良いトレーニングになった」との声があり

ノート販売で接客体験

〔静岡〕ワーク春日

11月23日、静岡市中心身障害児福祉センターいこいの家で開所50周年を記念して行なわれた「いこいの家まつり」に職員1人と利用者さん2人で参加しました。当施設は以前制作した塗り絵や、不用品になった紙と点字用紙を再利用したノートなどを販売(本誌2024年9月号「トピックス」P46掲載)。利用者さんはいつもの内職作業とは違う接客業務を体験することができ、「良い経験になる」と喜んでいました。ノートを手にとったお客さんは「点



字って模様みたいだね」と一言。点字のクロスワードパズルを表紙に使ったことを伝えると、とても驚いていました。(施設長 阿部ゆかり)





三重県済生会  
多職種が成果発表



第48回済生会フォーラムを当支部主催で11月9日に開催し、松阪総合病院と明和病院から5題ずつ計10題の演題発表が行なわれました。

事務、リハビリ、検査、災害など多職種からさまざまなテーマでの演題発表がある中で、明和病院の「コロナ禍においても外食がしたいー」が最優秀演題に贈られるフォーラム賞を受賞。テーマアウトした食事を利用者さんに合わせた食事形態に加工し、院内で食事を楽しむ取り組みについての発表でした。

その後、三重県済生会職員表彰式では「学術功労賞」「業務奨励賞」「特別功労賞」の表彰が行なわれ、両院で合わせ

て14人の職員が表彰されました。  
(松阪総合病院  
診療支援センター 冨永 希)

特養などでしこ香川  
多機関との連携強化で  
災害に強いまちを目指す



11月28日、協定福祉避難所に係る開設・運営訓練を実施し、社会福祉協議会、高松市、香川県、香川DWA、市内の介護老人福祉施設など19施設3団体から約40人が参加しました。地震発生2日後、一般避難所

に避難をしていた方に特別な配慮が必要となり、当施設が受け入れるというシナリオで訓練が進みました。市役所避難所担当部署の内部調整に始まり、当施設への受け入れ要請と避難者の退所までの流れをシミュレーションしました。

訓練後には意見交換会があり、避難所開設の課題などについて話し合いました。平時から防災情報の集約と伝達システムの構築を進め、災害に強い高松市香川県を作り上げる一翼を担っていきたいと思っています。

(事務所 北原岳史)

〈北海道〉小樽病院  
医・歯連携の推進を

11月8日、「歯・口腔に関わる在宅療養支援サポート研修会」(小樽市歯科医師会主催)が当院で開かれました。北海道大学大学院歯学研究院の渡邊裕准教授がリハビリや栄養状態との相乗効果が期待できる口腔ケアの重要性について講演しました。

2024年度の診療報酬改定ではリハビリ、個別機能訓練、栄養、口腔の一体的取り組みが



推進されることに。回復期リハビリテーション病棟等の入院患者さんの口腔ケアに対する評価が新設され、当院でも歯科との連携が開始されています。

研修会には近隣の医療・介護従事者のほか、当院のリハビリ・栄養・看護職など含め約50人が参加。渡邊教授は「リハビリをするにも栄養が大事で、その入り口は口。形あるものを食べることで栄養状態や口の中が良くなり、体も元気になっていく」と説明しました。

(済生記者 定 淳志)

〈埼玉〉加須病院  
医療の現場に興味津々



12月2〜4日に市立加須東中学校の生徒5人が職場体験で来院しました。

職場体験の受け入れは当院の移転後初めて。医師・看護師だけでなく臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士など多職種が働いていること、また看護師の実際の業務を知ってもらえるように、看護部が中心となり企画。業務内容についての座学やワーク、手術室や外来、病棟をはじめ多職種が働く現場の見学、患者さんへのケア体験などを盛り込みました。



生徒たちは見るもの・聞くもの全てに興味津々の様子で、「看護師はいろいろな仕事をしていることを知った」「進路に生かしていきたい」「手術室の体験が楽しかった」などの感想があった。

〈大阪〉泉尾特養第二大正園  
セレッソ大阪から  
勝矢アンバサダーが来園

11月12日、セレッソ大阪から勝矢寿延アンバサダー(元サッカー日本代表)が来園しました。

当日は、利用者さん36人と職員8人でサッカーボールを使ったエクササイズ、サッカーに関するクイズ、歌や手拍子での応援の練習を行いました。終了予定時間を大幅に超過するほど大いに盛り上がり、参加した利用者さんからは笑い声が絶えず、笑顔がいっぱいでした。

この訪問は「リーグとサントリーグ」



職員も生徒たちの元気で明るい笑顔を見ることができ、若いパワーと仕事への活力をいただきました。

(済生記者 蓬田絵里子)

ウエルネス株式会社による「Be supporters」プロジェクトの一環。当園はこれまで、敬老の日に合わせて「人生の先輩からのエール」等の企画に参加してきました。

(済生記者 黒木洋輔)



# topics

## 〔三重〕 松阪総合病院 きゆうきゆうしゃに 乗ったよ

11月12日、院内保育園たんぽぽの園児たち14人が、保育園前



の駐車場で、保育士とともに当院の救急車見学を行いました。お散歩カートや歩きで救急車の前までやって来た園児たち。いつもの車とはちよつと違う雰囲気に緊張の面持ちでしたが、「きゆうきゆうしゃー」と言いながら車の側面に触れてみて楽しんでいました。

つい先日まで使用されていた救急車の中に入ると、ストレッチャーに座ったり、寝転んだり、運転席に座っていろんなところに触れてみたり。友だちと腕をしっかりと組んで、ニコニコしながら思い思いに救急車を見ていました。

（済生記者 岩崎貴穂）



## 〔愛媛〕 松山老健にきたつ苑 老健大会で取り組み発表

11月14・15日に岐阜市で第35回全国老人保健施設大会が開催



され、当苑から4人が参加しました。

当日は全国から約3200人が来場。当苑の非常災害対策委員会を代表して筆者が「職員の災害対応力の支援」をテーマに、南海トラフ地震への警戒が高まる中での被害想定を理解・必要物品の整備・訓練の充実・優先順位の周知の4点について

具体的な取り組みを発表しました。全国の各施設の取り組みを知ることができ、今後の老健のあり方を考える機会となりました。

（介護課入所 櫻田和世）

## 〔大阪〕 中津病院 刑余者支援への感謝状

11月26日、近畿地方更生保護委員会・鈴木庄市委員長から志手淳也院長に感謝状の授与と記念品の贈呈がありました。令和2年に大阪保護観察所長から感謝状をいただきましたが、この度も更生保護施設「和衷会」からの推薦により感謝状授与の運びとなりました。

当院は大阪府済生会の主体事業である和衷会健診事業を平成22年から他の大阪府済生会病院と協働して実施。和衷会と同区内にある当院では、診療が必要な入所者さんに可能な範囲で無料低額診療事業適用による診療を提供しています。

鈴木委員長から謝辞をいただき、志手院長は「刑余者の皆さんの更生の道はご苦労が多いと思うが、当院として対応できることは今後も協力していきたい

## い」と応えました。 （生活福祉相談室 富士川浩子）



川口医師は、消化器内科の医師として高度化・多様化する医療ニーズに対して的確な診断と治療、そして患者さんの立場に立った親切・丁寧な診療を行ない、済生会の医療と福祉の拡充に努めてきました。

また、地域医療連携室では病診連携に積極的に取り組み、地域住民に向けて市民公開講座・無料健康相談等を開催するなど、地域医療における福祉推進に貢献してきました。

表彰を受け、川口医師は「病院の皆さんに支えられてこのような貴重な賞をいただくことができ誠に光栄です」とコメントしました。

（済生記者 松元靖寿）

## 和歌山病院 地域医療・福祉を推進

10月10日、和歌山市・県民交流プラザ和歌山ビック愛で「令和6年度和歌山県社会福祉功労者表彰式」が行なわれ、川口雅功・消化器内科部長兼地域医療連携室室長が和歌山県社会福祉協議会会長表彰を受賞しました。



## 〔大阪〕 野江病院 イベントで糖尿病啓発

毎年11月14日は「世界糖尿病デー」として全世界で啓発キャンペーンが繰り広げられています。当院でも9〜11時、1階特設ブースでイベントを催しました。日本では糖尿病患者は予備軍も含めると約2000万人（6人に1人）といわれており、早期発見と予防の重要性を少しでも伝えたいとの思いで今回のイベントを企画しました。



シユを配布し、糖尿病についてアピールすることができました。

（看護師 杉原千穂）

当日は医師1人・看護師3人、栄養士2人がスタッフとして参加。血糖測定と療養相談には68人、栄養相談には18人、握力測定には21人の来場があり、「初めて血糖を測ります」「血液検査に血糖の項目があるんですか？」などさまざまな声が聞ける機会となりました。また、来院した方々に日本糖尿病協会のティッ





〈神奈川県〉横浜市東部病院  
ギニアからの研修生

当院臨床検査部で11月19日から2週間、JICAを通じてギニアからの研修生を受け入れました。

研修生は薬剤師で、当院では座学と技術指導を通して、感染症全般について学びました。そのほか感染防止対策チーム（ICT）のラウンドの同行や当院薬剤師からの講義も受けて



いました。当院での研修に対して本人は「難しいながらも、自身にとっており、良い学びや参考になることが多くある。自国にはない最先端の機械やシ

ステム、そして現場のチームワークをはじめ、しっかりとしたローテーション・シフトによる24時間対応可能なシステムなどが素晴らしいと感じた」と語りました。

（済生記者 荒木愛美）

京都済生会病院

地域最大級のお祭りでも健康を意識してもらおう

11月10日に開催された「長岡京ガラシャ祭2024」に今年も出展しました。雨が多いというジントクスを覆すようないい天気、当院の魅力・ブランドづくりプロジェクトメンバーを中心に職員13人が参加して「血管健康度測定」「脳年齢チェック」を実施。今年のガラシャ祭は過去最多の約7万人訪れたとのことで、当院ブースもこれまでで一番多い258人が来訪しました。

ブースには来訪者が途切れることがなく、「旧病院からずっと通っている」「いつまでも健康に気をつけて、このようなイベントに遊びにきたい」などの声も聞かれ、体験した方々は、スタッフから渡された測定結果



を家族や友人と見せ合ったり、スタッフに質問したりと、健康を意識してもらおう1日になりました。

（魅力・ブランドづくりプロジェクト 松岡志穂）

〈大阪〉千里病院

メディカルラリーで168人が切磋琢磨

11月3日、関西大学高槻ミュージックキャンパスで千里救命救急センターが「第21回千里メディカルラリー」を主催し、全国から23チーム168人が参加しました。



シナリオのテーマは、外傷救助・電撃傷・被災地病院支援など救急・災害医療に関する課題を取り上げました。リアルに再現された現場で、安全確認・コミュニケーション・診断治療の正確さ・スピード・判断・接遇・家族対応などが採点されました。優勝したBEKOBETチームが表彰式でうれし涙を見せる場面も。参加者からは「現場での医療行為の重要性について知ることができた」などの意見がありました。

（千里救命救急センター 伊藤裕介）



メディカルランナーとして  
医師・看護師28人が参加

〈埼玉〉加須病院

12月1日に「第29回加須こいのぼりマラソン大会」が行なわれ、当院から32人が参加しました。今大会は全国ランニング大会100選にも選ばれる、加須市の冬の風物詩。今年は3900人のランナーが市内を駆け抜けました。

当院からは、メディカルランナー（コースを走りながらレース中に健康上の問題に遭遇した場合に救護活動を行なうボランティア）として医師11人・看護師17人、一般ランナーとして4人がおそろいのTシャツを着用し、3キロ・5キロ・10キロに参加しました。

天気にも恵まれ絶好のマラソン日和となり、沿道からの声援も大変心強く、メディカルランナーの励みになったようです。また、大きな怪我や急病人などもなく、無事に大会は終了しま

した。

（済生記者 蓬田絵里子）

静岡済生会総合病院

園児も保育士も一緒に遊び歌に熱中

11月26日、なでしこ保育園で荒巻シャケさんによる「遊びうたライブ」を開催しました。以前別のイベントで荒巻シャケさんの取り組みを見たスタッフが、小さい子から楽しめて、保育士にとってのも勉強になる良い機会になると考え企画したものです。

ライブが始まると、1・2歳児たちは「ピーピーバックします」の曲に合わせて乗り物になり、元気いっぱい！ 幼児たちも忍びなくなり、体



を思いきり動かして楽しんでいました。参加した63人の子どもたちは「もういっかい！」を連発。保育士からも「0歳児からあんなに集中して楽しめることに驚いた」「荒巻シャケさんのかけ方、表情、遊び方がとても勉強になった」などの感想が寄せられました。

（なでしこ保育園 副園長 望月美穂）



福井県済生会病院  
最新がん診療情報を共有

11月8日、当院本館2階研修講堂で「集学的がん診療センター講演会」を開催し、約70人が参加しました。

当日は（栃木）宇都宮病院の篠崎浩治・副院長兼統括診療部長と化学療法科・行澤齊悟主任診療科長が講演。篠崎医師は宇都宮病院の経営戦略やその成功例を含めた取り組みについて、行澤医師はがんゲノム医療に関する最新情報を交えた話があり、



今後の当院の経営やがん診療を考える大変有意義な時間となりました。

参加者の一人は「大変勉強になった。今後の診療に生かしたい」と感想を述べていました。集学的がん診療センター顧問の宗本義則副院長は「今後も全国の済生会と連携しながら最新のがん診療情報を共有し、地域医療の発展に貢献していきたい」と抱負を語りました。

（済生記者 田中一弥）

（山口）下関市

豊浦地域ケアセンター

老健大会で決意新たに

11月14・15日に岐阜県で開催された第35回全国介護老人保健施設大会に老健ひびき苑から3人が参加しました。

約3000人が集まった今大会では、全国各地から集まった多様な専門家たちが、各地域での成功事例や新たな取り組みを紹介。老健施設が直面するさまざまな課題やその解決策について意見を交わし、多くのことを学ぶことができました。今後のカギになるのは、それぞれの課題に対して職員がどの



ように取り組むか。この経験を生かして、情熱を持った当苑の仲間たちと共に成長し、前進する姿勢を忘れずに取り組んでいきます。来年の全国老健大会は、11月26・27日に下関市で開催されます。

（老健ひびき苑 主任介護福祉士 今田賢二）

（大阪）泉尾特養第二大正園  
廊下とともに心も明るく

11月9日、大阪昭和会による塗装奉仕活動の一環で、当園3階廊下の壁の塗装をしていただき

てごみ拾いを行いました。

普段通勤などで使っている道にも、時間をかけて歩いてみるとタバコの吸い殻やペットボトルなどが見つかりました。清掃活動できれいになった様子を見て、地域の環境美化について考える良い機会になりました。

（総務課 丹野治直）

（静岡）伊豆医療福祉センター  
まつりで施設をPR

第11回となる施設の一般公開イベント「伊豆医療福祉センターまつり」を11月23日に開催しました。

施設のことをより広く知ってもらおうと、プログラムを増やしての実施となつてから今年で2回目。当日は約1200人の来場者がありました。

リハビリや日中活動、看護師体験ができるブースに、センターや医療・福祉にまつわるクイズラリーなど施設の活動に触れてもらう企画に加え、ステージでは観客を巻き込んだダンスや太鼓、バンド演奏で大盛り上がり。そのほか、キッチンカーの販売や福祉事業所による出店、福祉車両の展示もありました。



最後は、入所者さんたちが事前に録画した動画をその場で自ら操作し進行するエンディングセレモニーで幕を閉じました。

（済生記者 竹味由惟）



山形済生病院  
清掃活動で地域貢献

11月8日早朝、当院職員が病院近くの県道沿いや隣接する河川の歩道で清掃活動を実施しました。毎年、社会貢献活動として行なっているものです。今回は看護師、コメディカルスタッフ、事務職員など55人の職員が参加し、四つのチームに分かれ

職人さんに「ありがとう」と笑顔で感謝を伝えている方もいました。

（介護部 廣澤千鶴子）



# topics

11月30日、当院で里親サロンを開催しました。午前の0〜3歳の部には13家族32人が、午後の4〜8歳の部には13家族40人が参加しました。

会場にはスタンプアート、クリスマス飾りなどの制作ブースのほか、メダカすくい、リースやクリスマスツリーをバックにサンタやトナカイになりきれる撮影スポットも用意しました。

ひとしきり各ブースを楽しんだ後は、制作物を発表しながら現況の報告をする時間が設けら

## 里親サロンで成長を実感

〈栃木〉宇都宮乳児院

加者同士で行なう実技指導もしてもらいました。

おむつ体験をすることで、利用者さんの不快な気持ちが分かるなどさまざまな気づきが得られました。また、おむつの吸収量を把握することで、おむつコストの削減も検討できるように。参加者からは「個々に合わせたおむつの巻き方や回数を学ぶことができました」との感想もあり、実りある研修会となりました。

〈介護福祉士 八尋拓馬〉



## 済生会フェアに1400人

〈愛媛〉今治病院

10月27日、第3回済生会フェアを当院・今治老健希望の園で開催し、地域住民約1400人が来場しました。

オープニングを飾ったのは今治しまなみスポーツクラブの小学生チアリーディングチーム「LOVENS（ラベンス）」の華やかな演技。松野剛院長の挨拶後、済生会フェアがスタートしました。

毎年大人気の薬剤師体験、手術体験や内視鏡体験に加え、盲導犬とのふれ合いコーナー、パターゴルフ、スタンプラリーなどを実施。行列ができる企画もありました。ナース・ドクターコスプレ企画では、親子や友だちと一緒に楽しむ姿が印象的でした。

合計31企画を堪能した参加者からは「来年も楽しみにしています」「貴重な体験ができました」などの声がありました。少しずつ地域に定着している実感を覚えることができました。

〈済生記者 村上景助〉



れました。午前の部は主に里親さんがマイクを握りましたが、午後の部は子どもたちが自己紹介から制作物の発表までを立派にこなしてみせ、その成長した姿に感謝するスタッフもいました。

参加者からは「子どもの成長を喜んでくれてうれしかった。次回もぜひ参加したい」との言葉をいただきました。

〈済生記者 大久保彰子〉

## 介護技術コンテストで介護福祉士会会長賞受賞

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑

11月24日、令和6年度第11回静岡県介護技術コンテスト（ケアコン）がグランシップで開催

## 〈滋賀〉守山市民病院 多職種で考える認知症ケア研修会

認知症ケアチーム主催の認知症ケア研修会を11月15日に行ない、チームメンバー9人を含む計44人が参加しました。

今回の研修は「認知機能障害が生じている患者との関わり方を学び実践できる」ことを目指し、グループワークによる事例検討をしました。看護師やセラピスト、コメディカル、事務など、職種混合のグループで具体的なケアについて意見を出し合う中で、普段は患者さんとの関わりが少ない職種でもケアにつ



いて深く考える機会となりました。「難しかったが勉強になった」との感想が寄せられ、非常に有意義な研修会となりました。

〈済生記者 中嶋元香〉

## 〈滋賀〉特養淡海荘

おむつフィットター来荘  
排泄介助に関わる基本的な知識を学ぶため、11月19日、大王製紙のおむつフィットターの3人



を招き研修会を実施しました。当日は職員30人ほどが参加。おむつに関する座学だけでなく、おむつ体験として体験キットを実際に装着し、おむつ介助を参

されました。当日は県内施設から介護従事者13人が、事前に与えられた課題に対して支援の方法を考え、実技を披露しました。当苑からも介護員のヌルアジザーさんが参加。「看取り期の食事の支援」に挑み、個別援助計画書作成部門で静岡県介護福祉士会会長賞を受賞しました。ヌルさんは「大勢の前で支援をするのが初めてで緊張しましたが、皆の力があつたからこそ賞をいただくことができました。たくさんの方の応援と協力に感謝し

ています。この経験を生かして日々の業務にも取り組みたいです」と受賞の喜びを語りました。

〈済生記者 石田遼祐〉





〔山形〕 特養愛日荘  
地元のまつりで作品展示

10月19・20日、東沢地区振興会主催の「東沢まつり・文化祭」が行なわれ参加協力しました。会場の東沢コミュニティセンターに約1300人の地域住民が集い、にぎわいを見せていました。

当施設は利用者さん・スタッフの作品約40点の展示のほか、健康ブースでの健康相談の実施、当施設への子ども神輿の受け入れに協力しました。自分の作品を多くの人に見てもらう経験は利用者さんの皆さんにとって大きな喜びとなりました。一方で、感染症対策のために利用者さんが直接会場に足を運べなかったのが心残りです。来年は一緒に会場に行きたいと思えます。

地域イベントへの参加は利用者さんの社会参加を促進する重要な取り組みなので、今後も積極的に関わっていきます。

〔済生記者 高橋 睦〕

〔鳥取〕 境港総合病院  
5年ぶりの健康保健講座

10月30日、当院2階会議室で



「済生会健康保健講座」を5年ぶりに開催し、地域住民66人が参加しました。

当日は栗木悦子特任副院長が講師を務め、「脳神経内科のcommon disease（よくある病気）認知症、頭痛、脳卒中について」のテーマで、最新の予防法や治療法なども交えて分かりやすく解説。参加者の皆さんは熱心にメモを取り、質疑応答では「高血圧を指摘されたことがあるが、脳卒中予防として治療を始めるべきか」など次々と質問があり、テーマへの関心の高さがうかがえました。

また、脳梗塞後遺症で通院治療の方が「このように元気

地域医療の連携強化へ

新潟県中央基幹病院

「す！」と早期発見・早期治療開始の大切さを語った際には、会場内から大きな拍手が起こり和やかな雰囲気。今回は3月に開催予定です。

〔済生記者 亀尾 美子〕

11月20日、第1回けんおう地域医療フォーラムを開催しました。本フォーラムは、県央地域の医療機関間の連携強化や医療従事者の知識向上が目的。近隣の医療機関、介護施設、消防機関、薬局の医療従事者を対象とし、会場に38人、ウェブ配信を通じて44人が参加しました。

当日は臨床研修医の澁谷俊徳医師による症例紹介、遠藤直人



防火避難訓練に59人

長崎病院

病院長による当院の診療実績や体制、教育・研修環境、地域における当院の役割に関する講演を実施。会場では主に当院の医療体制について活発な意見交換も行なわれました。今後も本フォーラムを継続し、地域医療における連携強化と発展に努めていきます。

〔済生記者 小柳 裕一〕

平日夜間を想定した防火避難訓練を11月19日に行ない、59人

の参加者が緊急時の対応力向上を目標に、初期消火・通報・避



難の一連の流れを体験しました。訓練終了後、長崎市中央消防署警防1課査察指導係の山口匡視さんから「問題なくスムーズに行なえた」との評価をいただきました。しかし、火災発生時に火元が最も危険との指摘も。「ドアノブが熱い状態になったら、無理に消火せず、避難

を最優先に行ないきましょう」とのアドバイスもありました。さらに、屋内消火栓を使用した模擬訓練（放水）を行ない、具体的な消火方法も学びました。放水が可能な場所での訓練は珍しく、消防の方もその様子を撮影していました。

〔済生記者 平川 幸子〕

超緊急帝王切開シミュレーション

10月24日、分娩室とオペ室で3回目となるグレードA（超緊急帝王切開）のシミュレーションを行ないました。グレードAとは、母体もしくは胎児またはその両方が非常に危険な状態にあるため、30分以内に胎児を娩出しなければならぬ状態をいいます。

今回は実際の症例をもとに、平日夜勤帯を想定して実施。周産期センターとオペ室のスタッフ、産婦人科医、小児科医、麻酔科医など23人が参加しました。また、各部署の職員が多数集まり、その様子を見学しました。シミュレーション後の振り返りでは、前回より良かった点や、どうすればよりスムーズに動け

静岡済生会総合病院

るかについて意見を出し合いました。担当したスタッフは「急変時に安全・迅速に行動できるよう今後も続けていきたい」と話しました。

〔済生記者 酒井 あい〕

職員有志による花植え  
患者さんに癒やしを

〔三重〕 松阪総合病院

11月15日の朝、職員有志8人が当院周辺の花壇の花植えを行いました。

入院・外来・リハビリの患者さんが当院の前を通ったときに、少しでも明るい気持ちになれるようにという思いで年1回活動。看護部長、副看護部長を中心に



多職種のメンバーが参加し、職種の交流にも一役買っています。今年には正面玄関前、救急外来出入口口前、院内保育園前の花壇に新しく柔らかい土を追加し、花植えを実施。なでしこを中心に白、黄色、ピンク、赤と色とりどりの花が並びました。小さな花たちと共に、当院で穏やかに過ごしていただければと思います。

〔済生記者 岩崎 貴穂〕





兵庫県病院

メディカルランナーが大会をサポート

11月17日に開催された神戸マラソン2024に、当院の研修医と救急救命士の2人がメディカルランナーとして参加しました。

当日は雨上がりで気温が高く、例年に比べ厳しいコンディションだったこともあり熱中症や脱水症状のランナーが続出。そんな中、当院スタッフは迅速な判断力と対応力を発揮し、脱水症状を訴える人への初期対応や救急搬送準備のサポートを行ないながら、無事完走しました。

大会後、救急救命士は「メディカルランナーは有事に素早い

的確な判断が求められる場面が多く、改めてその重要性を実感した。沿道の応援やランナーの熱意に力をもらい、メディカルランナーとして完走できたことは貴重な経験でした」と振り返りました。

(済生記者 吉井梨恵)

70人が参加、症例検討会

11月28日、下関市医師会豊浦班・済生会豊浦病院合同症例検討会を開催し、約70人が参加しました。会場には地域の医師だ

の啓発、看護師の就職相談、医師による病院経営や災害医療、糖尿病、骨粗しょう症の講演も行なわれました。参加者からは「どのブースも楽しめた」「知らないことが多くとても勉強になった」との声が寄せられました。

(済生記者 小山友輝)

災害に備えた想定訓練

10月24日、区内の病院が同日に各自で訓練を行なう港区災害医療合同訓練を実施し、当院の災害対策委員会主導のもと74人が参加しました。

前半は院内訓練として会議室で机上訓練を行いました。地震発生後に11階西病棟で火災が発生するという想定のもと、部署ごとの動きを確認しました。若い医師が災害対策本部を経験することも目的の一つとし、三つのテーブルに分かれて実践。各テーブルに委員会のファシリテーターが付き、適切な助言を送りました。

後半は合同訓練として、テナントを設営してトリアージ実習。トリアージタグを使用して2人1組で治療の優先度を決めまし



神奈川県病院

フェスタ開催で地域と交流

11月9日、当院内で「フェスタなでしこ」を開催し、約250人が来場しました。

当日は「ぶち人間ドック」の脳年齢や血管の硬さ測定、「頸動脈エコー体験」が人気を集め、来場した子どもたちはゼリーを使ったエコ体験やお菓分包体験、押し花キーホルダーづくり、ぶるぶる石鹸づくりを楽しみました。

また、NPO法人によるお菓子や雑貨販売、地元農家の野菜と花苗販売、職員によるカフェや焼きそば販売、タクシー運転手らによるバンドのミニコンサートも好評でした。

認知症マップの紹介やACP



当日は近隣の警察署や消防署、区役所などさまざまな機関の方々が見学し、災害拠点病院である当院の訓練に熱い視線を注ぎました。

(済生記者 鈴木香純)

IGA腎症への理解を深めよう

11月28日、保土ヶ谷区が開催した難病医療講演会で、当院の腎臓高血圧内科・坂早苗医師と富樫政彦管理栄養士が保土ヶ

谷区役所で講演を行ないました。患者さんやそのご家族17人が出席し、今回のテーマである「IGA腎症」について学びました。

この病気は慢性的に腎臓に炎症が起り、発症から20年で約40%の患者さんが透析を必要とする腎臓の難病です。坂医師からは疾患の解説と治療のポイント、富樫管理栄養士からは食事療法について解説しました。

講演後には「検査の数値の見方はとても役に立ちそう」や「日々の生活の大切さが分かった」といった感想が寄せられました。

(済生記者 小澤郁斗)





# topics



114人とたくさんの方にお越しいただきました。キッチンカーでは焼きそばやポテト、クレープ、ドリンクなどの販売がありました。他にもわらび餅や大福、コーヒ、果物、ペーパーフラワー、アロマ、



## 〈愛媛〉小田老健ふじの園 小田特養緑風荘 地元中学生6人が 福祉の仕事体験

10月29日、地元の小田中学校の生徒6人が福祉体験学習として、福祉について理解を深めるため教師2人と共にふじの園・緑風荘に来訪しました。  
2グループに分かれ、入浴後の整髪や車椅子介助の体験、管理栄養士による高齢者の食事についての話、またリフトなどの介護機器体験を通してふじの園が推進するノーリフトインゲケアの介護を学びました。  
午後は生徒によるレクリエー



ションが行なわれ、楽しく交流することができました。最初はドキドキしていた生徒も徐々に利用者さんと触れ合えるように体験学習を終えると口々に「楽しかった」との声を聞くことができました。これを機に少しでも福祉に興味を持ってもらえれば幸いです。  
(小田老健ふじの園 事務 伊藤由美)

## 〈大阪〉富田林病院 医療機器管理のDX化 在庫確認はアプリで

当院医療機器管理室は10月28日、電子カルテ端末から医療機器の在庫状況を確認できるアプリを導入しました。このアプリは医療機器管理業務を担当する臨床工学技士を中心にアイデアを出し合い、医療情報課協力のもと開発したものです。

医療機器管理室では73機種926台の医療機器を管理し、そのうち持ち運びができ各科共用可能な機器250台を中央管理。「最小の保有台数で最大の稼働率を目指す」を方針としてきましたが、稼働率上昇に伴い貸出在庫が不足し、機器を借



りに来た看護師等が待機せざるを得ないケースが課題となっていました。

アプリ導入により、看護師等は機器を借りる前に在庫を確認できるように。今後の効率的な業務体制の構築に役立てていきます。  
(医療機器管理室・企画課 恩地 隆)

## 静岡済生会療育センター 楽しい秋祭り 気分もハレ☆ばれ!

11月16日、当施設の秋祭り「ハレ☆ばれカーニバル」を開催しました。一般来場者数は

「と題して講演いただきました。」

勤務時間外の研修にもかかわらず、医師58人、看護師59人、コメディカル22人、事務員19人の計158人が参加。講演では今年開催される大阪万博を見据え、今後流行が懸念される感染症における受診時の問診項目や観察ポイント等が分かりやすく解説されました。

終了後のアンケートでは「万博に備え、渡航歴の有無の聞き取りの必要性、感染症の予防策や症例についての話を聞くことができ、大変勉強になった」という感想が数多く寄せられました。  
(感染管理室 永田夏子)

似顔絵の販売、ハンドマッサージやeスポーツ体験もありました。いろいろなブースがあり、入所者さんも何を買おうか、どこへ行こうかと悩みながら買い物や体験を楽しんでいました。ステージではダンスや歌、リーダーのパフォーマンスがあり、大盛り上がりでした。  
(済生記者 大須賀彩音)

## 〈埼玉〉鴻巣病院 秋祭りでメンバー同士が つながるきっかけに

当院のデイケアあすなろ会は11月1日に秋祭りを開催しました。

3回目となる今回はメンバー(利用者さん)協力のもと、1カ月前からハロウィーンの装飾で雰囲気づくりを開始しました。当日は、黒・紫・オレンジのいずれか一色を身にまとい、来所したメンバーに受付でキャンペーンをプレゼント。仮装したスタッフが待つ各ゲームコーナーをグループごとに回りました。ゲームは射的・ジュース輪投げ・かぼちゃ釣り・かぼちゃ重さ当てと盛りだくさんで、待ち時間に配布したゲーム券の裏に



描かれた間違い探しを楽しんでもらいました。イベントが終わるころには、各自のビニール袋は景品として獲得したお菓子やジュースでいっぱいになりました。  
(支援部デイケア科 小林 愛)

## 〈大阪〉中津病院 大阪万博を見据えて 感染対策を万全に

本年度の第1回感染対策研修会を10月15日に開催しました。今回、大阪大学大学院医学系研究科感染制御学・感染症内科の忽那賢志教授を招き「インバウンドと感染症 大阪万博に備え





〔兵庫〕特養ふじの里  
芸術展でダブル入選！

神戸市北区役所、北区自立支援協議会、北区社会福祉協議会等の主催で「北区ふれあいフェスタ2024」が10月19・20日にイオンモール神戸北で開催されました。

今回の出展数は185点。さまざまな障害を抱える方々の才能と工夫を凝らした、多種多様な素晴らしい作品が展示されていました。

済生会ハーモニーでは団体作・個人作を1点ずつ出展。団体作は施設名のふじの里にちなみ「藤」をあしらった「花



わあいいね（かわあいいね）を利用者さん2人・職員2人で制作。一人でも多くの方に障害のある方への理解、親しみを持ってもらえるようにと願い

を込めました。その結果、個人作「水のエネルギー」が佳作、団体作は最多投票数を獲得。見事ダブル入選を果たしました。（済生会ハーモニー 鳥居信彦）

〔神奈川〕金沢若草園  
保育士を目指す2人が  
当園で実習

11月25日～12月10日、横浜保育福祉専門学校の生徒2人の施設実習を受け入れました。

保育現場でも障害児と接するケースがあり、障害特性を理解し関わり方を習得する目的で



当園を実習先に選んだとのこと。実習前は関わり方に不安を持っていたようですが、実際に実習が始まると、利用者さんと一緒に作業を行ない会話することで、自然に接することができるようになっていました。

実習期間も後半を過ぎたところ、実習前に想像していたことと実習開始後に感じたことを尋ねると「実習前は利用者さんの作業を職員が手伝うものだと思っていたので、一人ひとりが自立して作業している様子を見て驚きました」と話していました。（済生記者 日高 純）

〔神奈川〕横浜市南部病院  
生活習慣を見直してみよう

11月7日、港南区センターで菊地友紀・糖尿病看護認定看護師による講演「生活習慣を見直してみよう」を開催し、近隣住民9人が参加しました。

高血圧や糖尿病などの生活習慣病は、知らないうちに症状が進んでいたり、複数の慢性疾患が併存したりして治療が複雑化することもあります。今回の講座では、いつまでも健康に生活をするためにはどうしたらいい



か、普段の生活で注意すべきポイントを解説しました。

参加者からは「理解が深まって、気を付けるべき点が分かった」などの感想がありました。少しの運動や食事内容の改善など生活習慣を見直すきっかけになったのではないかと思います。（済生記者 小澤郁斗）

〔北海道〕小樽病院

コロッケ作りで  
おいしい思い出

11月21日、院内保育所などでキッズクラブの子どもたちが、保育園留学で訪れた子との思い出づくりに、一緒にコロッケ作

までもあふれていました。（済生記者 定 淳志）



りにチャレンジしました。北海道済生会では、小樽市が全国で唯一実施する発達支援に特化した保育園留学を発達支援事業所きつずてらす、なでしこキッズクラブで受け入れていきます。

子どもたち12人は保育士が作っておいたタネにパン粉をまぶし、バターをひいたホットプレートに次々に載せると、室内は香ばしい匂いに包まれました。コロッケが出来上がり、待ちかねた子どもたちが一口食べる

とすぐ「おいしい！」の歓声が次々。あつという間に平らげ「おかわり！」も続出しました。園内には、おいしい笑顔がいつ

学会の開催地である松山市での開催となりました。当日は13人が参加。松山ワークショップなどでこの施設見学後、本部社会福祉・地域包括ケア課の鈴木孝尚課長心得から日本の障害福祉分野の動向や見通しについて報告があり、各施設経営状況のベンチマークを中心に活発な議論が行なわれました。

その後の情報交換会では、郷土料理の鯛めしとじゃこ天を楽しみながら、参加者間で現場運用について相談し合う様子が印象的でした。（熊本福祉センター 事務局事務課長 内田泰右）



全国済生会障がい者  
就労支援協議会

松山で6回目の定例会議

〔愛媛〕松山ワークショップンなどで10月17・18日、全国済生会障がい者就労支援協議会の定例会議を開催しました。本協議会は、全国の済生会で障害者就労継続支援事業を展開する10の事業所で構成。2018年度から年1回の会合を実施しており、6回目の今回は済生会





〔三重〕 松阪総合病院  
うさぎ先生に長蛇の列

秋晴れの11月3日、氏郷まつりに初参加しました。氏郷まつりとは戦国時代に活躍し松坂城主であった蒲生氏郷公を称え、松阪中心市街地で武者行列・楽市楽座等が開催されるお祭りです。

当院のブースではメイン企画「変身！ちびっこドクター＆ナース写真撮影会」と看護師・保健師による健康相談（血圧測定・酸素飽和度測定・健診案内）を行ない、総勢9人のスタッフが参加。また、事務スタッフ発案で、白衣を着たうさぎ先生（着ぐるみ）も登場しました。ちびっこからのうさぎ先生人



気は絶大で、常に手をつないだり抱っこしたりと大忙しでした。写真撮影会には約100人もちびっこが集まり、健康相談・血圧測定にも150人以上が参加して、大盛況なイベントとなりました。

（事務部室 大西 研）

〔山形〕 特養愛日荘  
車椅子清掃活動に感謝

10月21日、当施設の1階ホールでシルバー人材センター・東沢の毎年恒例、車椅子清掃ボランティアが行なわれ、同センター会員8人が来訪しました。当日は30台の車椅子がピカピカになり、参加者からは「車椅子



子にもいろいろ種類があるんだな」、スタッフからは「短時間でたくさん車椅子がきれいになってありがたい」という言葉が寄せられました。

清掃後、標準型車椅子やリクライニング車椅子など多様な機能を持った車椅子の説明を行いました。参加者からは転落予防のためにベルトで固定することについて質問もあり、身体拘束や虐待の可能性があることを説明。参加者たちにとって車椅子の知識を深める機会にもなりました。

（済生記者 高橋 睦）

〔新潟〕 特養康和園  
魚釣りも綿あめも最高！

10月31日、秋の訪れを楽しむ「秋まつり」を開催しました。このまつりは施設内でのレクリエーションとして企画。当日は1階と2階のフロアで、各階50人程度が参加して魚釣りと綿あ



め作りが行なわれました。魚釣りでは、ダンボールで作られたいけすに、釣り竿から糸を垂らして魚を釣り上げます。

参加した入居者さんの中には一人で魚を何匹も釣り上げた方もいて、その際には歓声が上がっていました。

綿あめ作りでは、職員が割りばしに綿あめを巻きつけて配ると、入居者さんは受け取ってす



ぐにバクリ！ 満面の笑顔で「あまいあまい」と味わっていました。

（済生記者 山田裕樹）

〔埼玉〕 川口総合病院

いつもおしごと  
ありがとうございます

勤労感謝の日の前日である11月22日、なでしこ保育園の子どもたち8人が手作りのプレゼントを持って当院に遊びに来てくださいました。

同園には当院で働く医師や看護師、事務職員などの子どもたちが通っていて、毎年この時期に感謝の気持ちを伝えるに来ています。



今年はずももたちが保育園の先生たちと一緒に作った折り紙の花鉢を、一人一鉢ずつ大事そうに抱えながらやって来て、元気な声で「いつもおしごとありがとうございます。これからもがんばってください」と感謝の言葉を伝えてくれました。

〔奈良〕 御所病院

地域の子どもたちからの  
感謝の贈り物

11月15日、当院近くの恵愛保育園から園児たちが育てたサツマイモなどの野菜や果物をいただきました。この贈り物は、同保育園の恒例行事である収穫感謝祭の一部で、医療従事者への感謝の気持ちを込めて贈られたものです。

当日は5人の園児たちが代表して来院。「いつも私たちのために働いてくれてありがとう」と大きな声で心温まる感謝の言葉を伝えてくれました。また、サツマイモを育てる様子が描かれた手作りのメッセージカードもいただきました。

田中隆事務部長から園



児たちに「いつも本当にありがとうございます。園児の皆さんも体調に気を付けてください」と感謝の言葉を返しました。

（済生記者 桑原侑希）



# topics



者誤認防止対策・転倒転落対策」のテーマでポスターを作成し、掲示しました。

この活動は、職員の医療安全に対する意識の向上とともに、患者さん・ご家族にも医療安全について知っていただき、一緒に取り組んでいきたいという思いから実施しました。

また、外来患者さんに「当院の職員はフルネームでお名前を確認していますか」と聞く調査を行ないました。職員のほとんどができていたという結果でしたが、「プライバシー」の観点から名前ではなく番号で呼び出してほしい」など貴重な意見を聞くことができ、当院の現状を振



状況報告と質疑を行



令和6年4月の介護報酬改定で新設された「業務継続計画未実施減算」への対応として、11月12日、(埼玉) 加須病院の奥野史寛災害対策室長を講師に招いて災害に対する訓練と研修会を開催しました。

当施設と併設する特養たかね荘との合同開催で、2施設合わせて38人が参加。今回は避難をテーマに、まずは前回研修会の振り返りとしてCSCA(災害時対応の原則)等の再確認を行なった後、避難の種類や方法等について講義を受けました。その後、実際に担架やシートを

## 「避難」をテーマに 災害訓練・研修会

(広島) 老健はまな荘

岡山済生会総合病院  
肝臓病センター 川上万里

ない、活発に意見が交わされませんでした。

今後も全国に展開する病院グループの強みを生かし、共同研究を進めていく予定です。常時新規参加施設を募集していますので、ご興味のある施設は是非ご連絡ください(肝臓学会所属不問)。

## 全国済生会肝臓共同研究 グループ(SLSG)

### 神戸市で全体会議 OBの先生も参加

JDDW2024(第32回日本消化器関連学会週間)が10月31日~11月2日に神戸市で開催されたことに合わせ、今年度2回目のSLSG全体会議を11月1日にアリストンホテル神戸で開催しました。

当日は早朝7時半の開始にもかかわらず10人が参加。今年度からグループOBにも参加を呼びかけており、久しぶりにお顔を見た先生もいました。会議では主に現在進行中の五つの研究内容について進捗

## 〈山口〉下関市豊浦地域 ケアセンター 長寿時代を豊かに生きる

11月24日、2回目となる「ひ



びき苑福祉フェスタ」を開催し約40人の参加がありました。テーマは前回同様「人生100年」。地域の皆さんが長寿時代を豊かに生きるために、学びと交流の場を提供しました。

阪田健介施設長による認知症をテーマとした講演をはじめ、



## 初代救命救急センター長が 旭日小綬章を受章

〈大阪〉千里病院

当院初代千里救命救急センター長の甲斐達朗先生が、11月3日、令和6年秋の叙勲にて旭日小綬章を受章しました。甲斐先生は長年にわたり、国際緊急援助隊(JDR)での活動や登録者への研修などに尽力され、その貢献が高く評価された結果です。

甲斐先生は「今までやってきたことが評価された。これは

主任介護福祉士 今田賢二

来苑者からは「気軽に参加できる雰囲気良かった」「学びと楽しみの両方が得られるイベントで充実していた」といった声がありました。

(老健ひびき苑)

レクリエーション、リハビリ体操、カフェスペースなど多彩なプログラムを用意。就労支援パン工房「一歩社」と連携し、手作りパン販売コーナーも設けました。

(済生記者 二階堂潤江)

JDRの伊藤裕介先生や看護師の方々、その他スタッフ皆の活動が評価され、代表として受章したものである」とコメント。スタッフの信頼関係や結束の強さがうかがえます。

また、同じくJDRで活動する京極多歌子さんからは「受章おめでとうございます。たくさんさんの登録者が増えてよかったですね」と祝福の言葉を寄せていました。



## 医療安全推進週間

山口総合病院  
毎年11月25日を含む1週間(2024年は11月24~30日)は「医療安全推進週間」。当院では同期間でセーフティマネジメントメンバーが「KYT・患



使って階段を上げ下げする訓練を行ないました。

今回学んだことはBCP(事業継続計画)に反映しますが、これとは別に、災害発生時に職員が動揺しないように「何をすべきかのチェックリスト」を新たに作る必要があると痛感しました。

(済生記者 佐藤 聡)



〈奈良〉 中和病院  
院内開催の健康フェアが  
初めて地域へ

毎年院内で開催していた健康フェアがコロナで中止になって5年。今年度はなんとか開催できなかつたかと考え、11月10日、病院を飛び出し桜井市主催の「ウオーキングフェスティバル」に参加しました。



話し合いながら準備。当日は食べ物のお店がたくさんある中、テント内にブースを作り「医療費相談」「健康相談」「体力測定」「脳年齢チェック」を行ないました。

当院のブースには歩き終わったイベント参加者が400人以上来場。話をしたり、血圧測定をしたり、体力測定をしたりと皆さんの健康意識の高さを感じました。「毎年こんなブースあったの?」「骨年齢チェックはないの?」と聞かれることも多く、約25人の参加スタッフは地域住民との交流を楽しむことができました。

〈手術室 駒田美恵〉

〈神奈川〉 金沢若草園  
保護者会で課題を抽出

令和6年度2回目の保護者会を11月9日に開催し、保護者23人、職員17人が参加しました。藤本武園長による挨拶の後、令和6年度下期の行事予定として健康診断とバス旅行のお知らせをしました。また、短期入所再開と利用方法についてや、グループホーム増設の進捗状況の説明などがありました。



第2部は個人面談を実施。園や家庭での様子などについて話し合い、今後の支援に役立つような情報交換をしました。相談内容はグループホームへの入居希望や一般企業への就職など幅広く、保護者会の重要性を再認識しました。

〈済生記者 日高純〉

〈大阪〉 富田林病院  
URと連携して  
地域住民向け講座

11月29日、URコミュニティ金剛団地の生活支援アドバイ



ザーと当院が共同で「摂食・嚥下障害講座」を開催しました。テーマは「口から安全においしく食べるために」。地域の皆さんへ安全な食事の摂取方法や誤嚥防止策を伝えることを目的としたもので、地域住民21人が参加しました。

講師と言語聴覚士が講師として登壇。嚥下体操などの実技も交えて、食事のとり方やフレイルのチェック方法などを分かりやすく指導しました。また、参加者からの質問に対しても詳しくアドバイスをしました。

さらに、MSWによる医療福

社相談や訪問看護師による健康チェックも実施。参加者の健康や生活についての相談にも応じました。

〈済生記者 島崎寛将〉

〈北海道〉 小樽病院  
お揃いの衣装でお楽しみ会

11月29日、院内保育所「なでしこキッズクラブ」でお楽しみ会を行ない、子どもたち16人が参加しました。

0歳児から2歳児のちゅうりつぷ・つばみ組13人による手遊び「さかながはねて」から始まり、カスターネットで「かえるの



うた」、かわいらしい浮輪をつけてのお遊戯「イカイカイルカ」を皆とても愛らしく、元気に披露してくれました。

続いて、3歳児のひまわり組3人がお揃いのすてきな衣装で登場。リングベルで「ジングルベル」お遊戯「アブラハムの子」

〈総務課 川畑有香〉

〈大阪〉 障害者支援施設  
ふくろうの社  
フランクフルトは完売御礼

11月9日、大阪市大正区の社会福祉協議会主催で区民と福祉事業所が一体とな

って開催する恒例の「きらめきパーティー」がありました。

大正区社会福祉施設連絡会の幹事として筆者と、当施設と同じ泉尾医療福祉センターの障害者支援施設北村園・山本玲施設長が参加し、他の幹事3人と共にフランクフルトの販売を行ないました。

大正区の古川吉隆区長の挨拶で開会すると、おおよそ



450人の区民が来場して盛況となり、200本のフランクフルトは完売しました。当施設の利用者さんも大勢来てくれて、楽しい一日になりました。

〈施設長 町原誠治〉





スセンターでは地域活動の一環としてフラダンスのボランティアアさん5人をお招きしました。フロアを彩ったのは、フラダンスの美しい手の動き。その一つひとつが実は手話であると教えていただき、その美しさに誰

もが息をのみました。そして、その美しさをより一層引き立てたのが、利用者さんに掛けられたレイ（花の首飾り）です。利用者さんは一緒に手や腕を動かして、フラダンスに参加しました。季節は冬ですが、フロアは夏のような熱気と盛り上がりを見せ、利用者さんには新しい経験と楽しい時間を提供できました。（ディサービスセンター相談員 輿水由里子）

### 〈栃木〉宇都宮病院 消化器症例検討会に50人

11月28日、第9回宇都宮消化器症例検討会を当院研修室で開催し、院外の医師12人と院内参加者合わせて約50人が参加しました。本検討会は消化器内科・消化器外科の両科の主催で、平成24年11月に開業の先生方との症例検討の研究会として発足しました。

篠崎浩治副院長兼統括診療部長による開会の挨拶の後、田原利行副院長兼消化器内科主任診療科長と吉川貴久消化器外科診療科長がスタッフを紹介。症例検討では外科・松本健司院長をはじめ、消化器内科・武



下達矢医長、外科・鈴木博史医長、消化器内科・堀江知史医師がそれぞれ発表しました。続けて化学療法科・行澤齊悟主任診療科長が特別講演、最後に内視鏡科・寺内寿彰診療科長が閉会の挨拶を行いました。無事に終了することができました。（地域連携課 秋山綾香）

### 〈茨城〉水戸済生会総合病院 プラハのすすめ

11月24日、イオンモール水戸内原のイオンホールで市民公開講座「元気に百歳を迎えるためには、プラハのすすめ」を開催しました。本講座は未来に向けた持続可能なまちづくり



協定に基づく取り組みとして健康サポート委員会が企画し、26人の地域住民が来場しました。当日は整形外科医師の生澤義輔院長による講演や、山田幹理学療法士と浅井佳子認知症看護認定看護師によるミニレクチャーを実施。同時開催の健康相談イベントと併せて盛況となりました。健康サポート委員会委員長の檜山千景看護部長は「皆さんが笑顔で参加してくださったのが印象的でした。地域住民の健康寿命のために今後も啓発活動を続けていきたいです」と語りました。（済生記者 今野正俊）



## 安心して暮らせるまちへ 認知症不明者捜索訓練

〈大阪〉吹田病院

10月29日、吹田市川園地区の認知症サポーターを対象に「声かけ見守り訓練」を吹田市認知症地域支援推進員、地域包括職員とともに開催しました。

これは認知症になっても安心して暮らせるまちを目指して、徘徊者役の人を捜索し声をかけるという模擬訓練で、当日は近隣住民14人が参加。熱演する徘徊者役に対して、参加者は声かけのタイミングを図りながら、時には協力し合って訓練に取り組んでいました。

その後の意見交換会では「周りに助けを求めることを学んだ」といったコメントもあり、認知症のある方を地域で支えていこうとする意識が高いことが分かりました。

病院でのこうした取り組みは初めてでしたが、参加者等の前向きな声も受け、来年度も当院で実施することを考えています。（係長 MSW 川端奈緒美）



### 〈大阪〉茨木病院 「クリーン作戦」で茨木のまちをきれいに

11月10日、当院の職員10人とその子ども1人が茨木市の清掃ボランティア活動「クリーン作戦」に参加しました。この活動は、自分たちが住む地域から阪急茨木市駅・JR茨木駅周辺を清掃し、茨木市を美しく保つことを目指すものです。

当日は当院含め地域の団体・高校から約300人が集まり、ごみ拾いを開始。JR茨木駅を経由して茨木高校でごみを回収しました。

### 〈山形〉特養愛日荘 高齢者の困り事解決 地域に先駆け協力

12月3日、山形県中小企業同友会代表3人が愛らんど地域包括支援センターを訪れ、阿部久センター長に「さいでけるのお役立ち事例集」50部を贈呈しました。

「さいでける」は暮らしの困りごとで、相談先が分からない、を解決するために、山形県中小企業同友会山形支部が立ち上げた民間サービスです。

当センターはさいでけるの加入企業と連携して健康講座等を開催したことがあり、市内14の



地域包括支援センターに先駆けて事例集を受け取ることとなりました。

代表の1人である城北電気工事株式会社・伊藤誠社長は「サービスをPRすることで利用を増やし、多くの人の悩み解決につながりたい」と思いを述べ、阿部センター長は「電話一本で悩みが解決できるのは便利」と応じました。

（愛らんど地域包括支援センター 副主任保健師 富士向美）

### 〈長野〉佐久市特養シルバード ランドみつき フラダンスによる暖かなひととき

11月27日、みつきデイサービス



# topics

すべき日にあたり、当施設は皇后陛下からの御下賜品(手拭い)を長崎県済生会の野川辰彦支部長からいただきました。御下賜品とは皇室や宮家からの贈り物で、皇室のお祝い事や功績に対する感謝の意を表すものです。いただいた手拭いは当施設で生活する利用者さん55人に寺崎和弘長崎福祉センター長からお配りしました。

皇后陛下の思いがこもった手



## 〈長崎〉特養でしこ荘 皇后陛下からの御下賜品 利用者さんたちが笑顔に

12月9日、皇后陛下がお誕生日を迎えられました。その記念



## 〈兵庫〉特養ふじの里 「早くパンが食べたい！」

11月21日にふじの里西館ホールで運動会を開催し、入居者さん105人・職員25人が参加しました。

競技は玉入れ、パン摘み競争、職員による綱引きを行いました。パン摘み競争に参加した入居者さんからはスタート前から「早くパンが食べたい！」との声。一所懸命頑張る姿が見られ、競技後もパンをなかなか離さない様子に、周囲も自然と笑みがこぼれました。生活の中では積極的に体を動



かす機会が少なく、運動会を通して身体機能の向上を図るとともに、他の利用者さんや職員ともコミュニケーションをとることができました。  
(東館 介護士 丸岡美誉子)

## 〈新潟〉特養長和園 小学生が特殊浴槽を体験

11月16日、当園ボランティア委員会が「小学生介護体験」を主催し、小学生4人が参加しました。このイベントの目的は、介護体験を通じて福祉や介護に興味を持ってもらうこと。また、当園がどのような施設かを紹介



内での移動中、利用者の方々が子どもたちに手を振ったり、声をかけたりする一幕も見られました。  
(済生記者 布施優子)

拭いを受け取った利用者さんたちは、一様に笑顔を見せ、両手を合わせて何度も「ありがとう」と感謝と喜びの声をあげていました。手拭いを広げて職員に見せる利用者さんの姿も。職員からも「すてきな手拭いですね」という声が聞かれました。  
(済生記者 川端 誠・川瀬義博)

## 〈神奈川〉横浜市南部病院 認知症はみんな支えていこう！

11月20日、横浜市港南区の田野第一地区社会福祉協議会主催で、当院の認知症看護認定看護師・大畑愛さんが「認知症ケア



〜みんなに優しい対応の仕方〜」と題した講演を港南地区センターで行ないました。当日は、認知症患者さんと接する機会がある社会福祉協議会の方や民生委員など30人が参加。当院が位置する港南区は市内でも比較的高齢化が進んでいる地域であり、そのため関心のある方が多く集まりました。大畑さんは参加者の身の回りで起きた悩みを聞き、具体的な対応方法を解説しました。認知症の人は今後さらに増えていくと予想され、地域全体で支えていくことが必要です。自分事として考え、どのような工夫ができるかをたくさんの方に知っていただきたいと思っています。  
(済生記者 小澤郁斗)

## 〈鹿児島〉川内病院 災害に備えておくことが 命を救う最善の道

11月16日に防災管理対策委員会の主催で大規模災害訓練を実施し、当院・川内看護専門学校から計140人が参加しました。災害拠点病院としての役割を果たし、現状のマニュアル関連の確認を行なうことが目的で



す。診療時間外に大規模な地震が起こり、近隣で地震による負傷者(20人)が発生したという想定。多数負傷者の受け入れのため、本部を中心としてトリアージと各ゾーニングでの対応を実施し、地震発生直後の各部署の行動要領を確認しました。訓練後の反省会では「災害勉強会を実施してほしい」「訓練回数の増加」など、災害意識を高めるための意見が多く寄せられました。これらを踏まえ、今後は定期的に勉強会と実動訓練を繰り返し実施する予定です。  
(総務課 久木野周作)

する絶好の機会となりました。当日は当施設について説明し、その後、リクライニング車椅子や特殊浴槽の体験を行いました。車椅子体験には「ベッドみたいで気持ちいい」という反響があり、特殊浴槽体験では「リフトが止まるときに少しドキッとした」と「怖くなかった」といった声が聞かれました。施設



遷延性意識障害者への看護等を説明

独立行政法人自動車事故対策機構岡山療護センター

独立行政法人自動車事故対策機構（ナ斯巴）が主催する「ナ斯巴コーディネーター研修」が11月11～15日、当センターで行なわれ、事務職のナ斯巴職員（コーディネーター）7人が参加しました。

研修では、遷延性意識障害者を対象とした実際の施設内看護・リハビリ、MSWの業務を見学・体験。また、退院患者さんのご家族とのオンライン意見交換を通じて、在宅看護の困難さを改めて認識しました。

参加者からは「看護師の業務における身体的負担を実感し、在宅看護を行なうご家族の負担を想像することができた」「退院前のカンファレンスから在宅支援に関わる多職種と連携し、



リハビリテーション機器体験

より充実した支援が行なえるようになりたい」との感想や意見が寄せられました。

（総看護師長 山田由紀子）

〈滋賀〉老健ケアポート栗東 京都のグルメを楽しんで

月に一度の「全国ご当地グルメメニュー」の京都編として、ばら寿司、湯豆腐、なす田楽、抹茶ゼリーなどを11月27日の昼食で提供しました。

当施設では、日本各地の有名な料理や珍しい料理を利用者さ



んに楽しんでいただくとうと、試行錯誤しながらメニューを考えています。とはいえ、生の魚介類を使うことは難しいため、海鮮丼のような海の幸たっぷりのメニューはなかなか取り入れられないのが残念なところです。お寿司は利用者さんにも好評で、普段残してしまうことが多い方もペロリと完食するほど。「お寿司もお豆腐もおいしかったわ」とのうれしい言葉をいただき、次はこの名物メニューにしようかなと想像を膨らませていきます。

（管理栄養士 木下美穂）

〈愛媛〉西条病院 健康教室で行政機関と連携

10月18日に石根公民館、10月22日に小松公民館で当院が健康教室を実施した後、西条市による地域医療出前講座が行なわれました。

西条市では、一次・二次救急体制の維持や医療従事者不足などの解消に向け、正しく救急医療を利用してもらえるよう地域住民に啓発を行なっています。今回は、西条市から地域の高

（社会福祉課 石村一美）

〈兵庫〉特養ふじの里 小規模特養までしこ神戸

11月11～15日の5日間、毎年



恒例の「5S WEEK」を開催することができました。ふじの里・なでしこ神戸の全職員210人を対象に、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を振り返る期間です。

今回のテーマは「原点回帰」ふれる・感じる・楽しむ」で、2施設での5Sの歴史を振り返りました。

業務審査では、リネン交換・電話対応・訪問対応について各部署代表が日頃の業務手順を競いました。また、各部署の一番の改善提案を職員による審査・投票により決定しました。各業務審査で一番になった職員にはマイスターの称号が与え



られ、選ばれた職員からは「なんだか恥ずかしいが、素直にうれい」といった感想も聞かれました。

〈静岡〉ワーク春日

近隣マンションと連携し 合同防災訓練

12月9日、近隣マンションの角栄ハイホームと共同で「近隣合同防災訓練」を実施しました。この訓練は、火災が発生した際の適切な対処法を身につけるために企画。角栄ハイホームとの話し合いがきっかけとなり実現しました。

当日は職員3人、利用者さん4人を含む合計38人が参加。静岡市消防局・千代田消防署城東出張所から講師を招き、避難訓練、通報手順の説明、水消火器による消火訓練、火災への注意喚起など、具体的な行動を通じて防災知識を深め



参加者からは「実際の避難や通報の際の注意点が分かってよかった」との声が上がり、訓練の有用性を改めて感じました。訓練終了後は、消防車に搭載している物の紹介や、防火服を着せてもらうなど大いに盛り上がりしました。

（済生記者 岡本竜馬）



治験担当医師とCRCが製薬会社から表彰

〔千葉〕 習志野病院

授与されました。[Site Staff Award 2024]が

この度、ベルギーから同社グローバル臨床科学部門代表者とプロジェクトマネジメント担当者が来訪。脳神経内科の牧野隆宏医師と上司医師、脳神経外科・村井尚之医師が、現在参加募集中の新規治験の参加対象患者さんについて議論しました。

その後の院内見学では、当院の取り組みについてグローバル臨床化学部門代表者から「とても感銘を受けた。国内外の治験実施医療機関に対して参考にするよう伝えたい」とお褒めの言葉をいただきました。今回の表彰にあたり、表彰状以外の報奨等の受け取



りはありません。

（事務部 村井ゆきえ）

長崎病院

中学生の職場体験 未来の選択肢を広げる

11月22日、医療職を目指す純心中学校の3年生5人が「総合的な学習の時間」の一環で当院を職場訪問しました。

はじめに済生会と当院の概要、地域包括ケアシステムなどについて説明。その後、各部署を訪問し、ヘリポートや病室の見学、放射線室でMRIの磁場を用



聖火にセーヌ川…… 運動会でオリンピック?

福井県済生会病院

（済生記者 平川幸子）

院内保育所ぽっかぽか園の運動会を10月19日、福井市東体育館で開催しました。お父さん、お母さん、そして祖父母や兄弟姉妹の参加もあり、総勢147人の参加でにぎやかな運動会となりました。

0歳児クラスの親子競技ではパリオリンピックにちなんだ聖火やセーヌ川が登場。1歳児ク



ラスは大好きな「はたらくるま」の歌に合わせて車に乗ったり、2歳児クラスは皆でカレールイスを作りあげたりと楽しい競技で大いに盛り上がりました。また、子どもたちが大好きな絵



全国親善ソフト大会 中和病院がサヨナラ勝ち

〔栃木〕 宇都宮病院

森岡美保子

11月10日、宇都宮市柳田緑地で第45回全国済生会親善ソフトボール大会が当院運営のもと開催されました。



本をモチーフにした競技も用意し、普段から慣れ親しんだ世界に入り込みました。保護者が見守る中、楽しそうに参加する子どもたちを見て、心も体もひと回り成長したように感じました。

（施設サービス課 院内保育所）

管理職と次世代リーダーの チーム力強化・人材育成

〔大阪〕 吹田病院

（済生記者 川原彩花）

当日は選手・係員・応援の職員など約270人が集結。各ブロックを勝ち抜いてきた山形済生病院・〈茨城〉水戸済生会総合病院・富山病院・〈奈良〉中和病院・〈愛媛〉松山病院・熊本病院、推薦チーム枠として前回大会3位の〈三重〉松阪総合病院、開催病院である当院の計8チームによる試合が行なわれ、どれも息をのむ熱い戦いが繰り返されました。

決勝は水戸と中和との対戦。水戸が1回に3点、3回に5点とヒットを連打し、点数を引き離そうとしましたが、中和も粘り強い追い上げを見せ、2時間半にわたる熱戦の末、8対9のサヨナラ勝ちで中和病院が優勝をつかみ取りました。

吹田病院の未来を共に築くため、管理職と次世代リーダーのチーム力強化と人材育成を目的とした会議「未来を創る会 ステップアップ2024」が11月に開催されました。



二つの研修が行なわれ、11月2日の管理職研修には42人が参加。職種や部署を越え、CS（顧客満足）について語り合いました。それぞれの視点の違いに改めて気づき、相違点を肯定し合う時間を持つことができました。終了後は、疲れた表情とともにスッキリした様子も見られました。

11月30日の次世代リーダー研修には30人が参加。各自が自身の行動指針を発表し、それらに基づいてアクションプランを作成しました。今後、経営戦略室会議などを経て具現化するよう取り組んでいく予定です。

（管理部 事務次長 上畠照美）





ともあり、毎回20人ほどの入居者さんが買い物を楽しんでいます。人気の商品はお寿司やパン、総菜やお菓子など。「毎週木曜日はお寿司の日」に決めているの。「今日は販売がないの？」との会話もあり、入居者さんの生活の一部となっています。

また、買い物を楽しむだけでなく、施設での生活ではどうしても機会が少なくなってしまう「自分で選ぶ」ことができるのも楽しいと皆さん喜んでます。地域の皆さんも買い物に来ていて、交流の場にもなっています。

(済生記者 門野智幸)

〈大阪〉野江特養城東園  
職場体験学習を再開

コロナ禍でここ数年中止していた職場体験学習を再開し、11月14・15日、近隣中学の2年生4人が来園しました。

2日間の体験部署はデイサービスで、生徒たちは車椅子の操作に最初は四苦八苦していましたが、慣れるにつれ、顔から笑



みがこぼれるようになりました。また、利用者さんと一緒にラジオ体操や工作を行なう中で、利用者さんから優しい言葉をかけられ、会話が弾むようになりました。

感想文には「職員の方に優しく指導していただいた」「利用者さんに優しくしていただき緊張がほぐれた」などの感想が綴られています。また、女子生徒の一人から「将来、このような仕事に就きたい」とのうれしい感想もありました。

(野江デイサービスセンター チーフ介護職 宮下 香)

〈茨城〉水戸済生会総合病院  
ボランティアさんに感謝

日頃から当院の運営にご協力いただいているボランティアさんに感謝の気持ちを込めて、11月1日、病院ボランティア懇談会を5年ぶりに開催。9人のボランティアアさんが参加しました。

当院のボランティア「野菊の会」は38年の長い歴史を誇り、多くの方々に支えられてきました。懇談会では、病院を代表して生澤義輔院長が心からの感謝を伝えるとともに、20年にわたり活動を続けてきた2人のボランティアアさんを表彰しました。



た2人からは「長い時間をかけてしっかりと信頼関係を築いてこられたことがうれしいです」「人の役に立てるよう今後も長く続けていきたいです」という前向きなコメントがありました。

(総務課 番場絵里子)



済生会リハビリテーション  
多職種連携をテーマに  
全国の専門職が集結

11月30日、クサツエストピアホテルで第7回済生会リハビリテーション研究会を開催しました。〈滋賀〉守山市民病院の野々村和男院長が大会長を務め、「多職種で実現するシームレスなリハビリテーション」急性期、回復期、生活期の医療と介護のテーマのもと、全国40の施設から174人が参加しました。

計56題の一般演題発表が二つの会場で並行して行なわれ、「回復期における活動向上の実践的戦略」と題した特別講演、多職種連携をテーマとしたシンポジウムは満席。よりよいリハビリテーション医療の提供を目指す参加者の熱気に包まれ、研究会は大盛況のうちに終了しました。

その後の懇親会にも116人が参加。施設の垣根を越えたスタッフ同士の交流も深まり、とても有意義な時間となりました。

(滋賀・守山市民病院 済生記者 中嶋元香)

家族と一緒に人生会議を  
してみませんか？

熊本病院

11月23日、当院コンベンションホールで「第4回南区人生会議の日」が盛大に開催されました。本イベントは人生の最終段階における医療や人生会議の普及啓発を目的に、熊本市南区役所福祉課が主催。南区地域包括ケアシステム推進会議実務者会議(通称…みなまる会議)が運営を担当し、当院もみなまる会議メンバーとして会場提供とパネリスト派遣、イベント運営に携



わりました。

4回目の今回は、これまでの講演や寸劇などの内容から趣向を変え、各分野の専門家によるパネルディスカッション形式で実施。スタッフを含め過去最高の306人が参加しました。アンケートでは8割の参加者が「人生の最期について家族と話してみたい」と回答し、「済生会だから来ました」「分かりやすかった」など好評の声が寄せられました。

(医療福祉相談室 山田憲彦)

プロの仕事に共感

奈良病院

11月6日、中川龍太郎監督の新作の映画撮影が当院で行なわれました。メインロケ地が奈良県であることから、当院に協力依頼があり、患者さん第一であること、感染対策を徹底してもらうこと等を条件に協力することになりました。

作品中に医療行為の場面があり医療監修も依頼され、当院の小谷沙代看護師長が担当しました。

撮影は昼過ぎから夜の9時過ぎまで及びました。特に驚かさ



れたのは、機材の搬入や設置時の手際の良さ、撮影時の与えられた役割を理解した機敏な動きです。まさにプロフェッショナルな集団という印象。それぞれが専門分野で力を発揮するという面では医療機関も映画製作も

買い物で「選ぶ」楽しむ

〈大阪〉吹田特養高寿園

昨年3月から、毎週木曜日に移動スーパー「とくし丸」が来てくれます。

豊富な品揃えで毎週というこ



〔石川〕金沢病院  
講座と健康チェックで  
糖尿病への理解を深める

11月19日、世界糖尿病デーのイベントを糖尿病療養指導士チームが中心となり開催しました。テーマは「カラダにイイコトはじめよう!」。代謝内科や整形外科医師が糖尿病や足病変について、管理栄養士が食事療法の基本について公開講座を行いました。

そのほか、血糖測定コーナーに約60人、フットケア・靴の相



談コーナーに約30人、理学療法士や臨床検査技師による健康測定コーナーに約50人が参加し、糖尿病についての理解を深めるとともに、自身の健康状態についてもチェックしていました。

11月の30周年記念行事や出前講座で今回のイベントのことを知り来院したという方もいて、「直接アドバイスをもらえてよかった」との声も多く寄せられました。(済生記者 浅野幸恵)

京都済生会病院  
バランスの良い食事を  
考え糖尿病を知る機会に

11月7〜14日に世界糖尿病デーのイベントとして、健康イベント「バランスの良い食事ってどんな食事? 外食も上手に楽しもう!」とブルーライトアツプを、糖尿病チームと魅力・ブランドづくりプロジェクトが共同で実施しました。

当イベントは糖尿病の予防と治療の啓発を目的に、バランスの良い食事の組み合わせの展示に加え、14日には血糖測定体験を実施。期間中延べ626人が来訪し、180人が血糖値測定を体験しました。



また、江崎グリコ株式会社の協力で、アンケートへの回答や血糖値測定をした人にSUNAOシリーズの糖質オフのクッキーやパスタ&パスタソースをプレゼントしました。夜間は当院の外壁や、長岡京らしく竹灯籠を使ったのブルーライトアツプを行いました。(済生記者 白須優也)

〔愛媛〕松山病院  
AIやロボットは医療で  
どう活用されている?

11月14日、当院から徒歩3分の立地にある新田青雲中等教育学校の3年生10人、4年生27人が来院しました。

夢ラボ(探求活動)授業の1環で校外に出て調査活動やフィールドワークを行なっているとのこと、当院では昨年度から受け入れを行なっています。当日は事前にもらっていた「AIやロボットが医療現場で活用されているか」「股関節の



可動域を広げる方法」「栄養管理で気を付けていること」などの質問に、宮岡弘明院長が実際に当院で行なわれているAI画像診断や手術支援ロボットについて説明しました。はじめは緊張した面持ちの生徒たちでしたが、終盤には続々



岡山済生会総合病院  
帰りたいくない!―  
医療現場で貴重な体験

当院では、今年度も中学生の職場体験学習として5月に岡山操山中学校、10月に岡山大安寺中等教育学校、11月に桑田中学校と山陽学園中学校から2年生計13人を受け入れました。体験学習は3日間の日程で、院内各部署での見学や医療行為の模擬体験、病棟での看護体験を実施しました。生徒たちは皆何に対しても「見たい」「やってみたい」と積極的に学習し、仁熊健文院長との面談では「緊張したけど院長先生は優しくかったです」と感激していました。

「さまざまな職種の方々がいるからこそ病院が成り立っている」と実感したとの感想も。充実の3日間の最後には「帰りたいくない」と残念がる生徒もいました。

(副看護部長 竹井淳子)

熊本)済生会グループホーム  
事業所  
芸術の秋に作品作り

当グループホームでは利用者の皆さんが頑張って制作した作品5点を展覧会に出品しました。11月12〜17日に熊本県立美術館分館で開催された「くまもと障がい者芸術展」に、初日から2日間に分けて出展者5人と会場へ足を運んできました。

自身の作品が展示されている風景、観覧者が作品に見入る様子を見て、ホームでの生活の中とはまた違う満面の笑みを浮かべる利用者さんたち。その姿に職員もうれしさと喜びを体感することができ



ました。他の利用者さんたちも刺激を受け、それぞれ余暇時間に作品作りを開始。職員も共に学びながら取り組んでいかねばと実感する今日この頃です。(支援員 坂井美佳)



「仕事を楽しく！」 荘内学会初開催

「介護の日」の11月11日、荘内学会を開催しました。学会の目的はサービスの質の向上と組織の活性化。そして仕事が楽しくなるきっかけになればという岩崎勝也施設長の思いから今回初開催に至りました。



当日は個別ケア、安全管理、環境整備、高齢者虐待防止兼身体拘束廃止の四つの委員会が発表しました。いずれの内容もレベルが高く、「利用者さんの生活をより良いものにしていきたい」「職員一丸となって職場環境を改善したい」というプロ意識を感じること

〈山形〉 特養ながまち荘

ができました。

最優秀賞に選ばれたのは環境整備委員会。5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣づけ）活動を通して、業務の効率化や職場環境の改善、安全性の確保、コスト削減を目指した取り組み内容でした。

（済生記者 高見友郁）

〈新潟〉 三条病院

見て、聞いて、触って！  
小学生が病院お仕事体験

11月16日、小学5・6年生を対象とした「病院お仕事体験ツアー」を開催しました。

医師体験では鶏肉を使って電気メスと縫合に挑戦したり、職員の協力のもとエコーで本物の体の中を見てもらったりしました。歯科体験では模型の歯を削り、詰め物をしてライトで固める作業をしました。看護師体験では人形にAEDの装着や心臓マッサージを試みたり、聴診器で参加者の呼吸音を聞き合ったりしました。

参加した16人の子どもたちか



らは「人の体の仕組みがよく分かった」「将来の夢に一步近づけてよかった」などの感想が寄せられました。

この体験ツアーをきっかけに、将来医師や看護師となつて三条病院で一緒に働けることを期待しています。

（済生記者 樋口拓也）

〈山形〉 養護（盲）老人ホーム  
山静寿

輪投げと手作りクレープで  
寒い季節も元気に

11月20日、施設内の食堂で「輪



投げ&クレープお茶会」を開催しました。この行事は寒い季節でも元気に過ごせるよう、身体を動かす運動とおいしいデザートを組み合わせたものです。当日は入所者さん43人が参加し、輪投げに挑戦。視覚障害者の方々には職員が「右」「左」などの声かけを行ない、一緒に

楽しむことができました。

運動の後は、手作りのクレープで一息。入所者の皆さんも手伝い、苺や桃、チョコレートソースをトッピングしたおいしいクレープが完成しました。

参加した入所者さんからは「久しぶりに輪投げをして楽し

静岡市心身障害児福祉  
センターいこいの家  
50周年記念イベントに  
800人が来場

11月23日、開所50周年を記念

かった」「身体を動かすことができよかった」「クレープがおいしかった」など笑顔あふれる感想が寄せられました。

（済生記者 丹 秀樹）



して「いこいの家まつり」を開催しました。コロナ禍を経て5年ぶりのイベントに、当日は800人弱の方々が来場しました。

卒園児もたくさん来てくれて、筆者が16年前に初めて担任したお子さんと再会。挨拶をしてくれる姿に、「こんなに素敵な大人になったんだ」とうれしい気持ちになりました。卒園児のお母さんに会って当時の思い出がよみがえる一方で、在園児たちはうれしそうにご家族とゲームを楽しんでいました。

プレイルームに飾られた「50周年思い出コーナー」では「卒園児なんです。ここにも、ここにも映ってる」とうれしそうに自身の姿を見つける方も。皆さんの笑顔を見て、これから先もずっと変わらず皆のための「いこいの家」でありたいと感じました。

（済生記者 齊藤知夏）

〈新潟〉 特養康和園  
面会の機会を増やして  
利用者さんの心を健康に

当園では昨年11月から面会制限の緩和を行なっています。そ



れ以前は月1回でしたが、月2回までできるようになりました。面会でのご家族との交流はQOLに影響を与え、入居者さんがご家族に会えないと物忘れが激しくなったり、認知機能の低下が起こったりします。また、気持ちが沈むだけでなく、不安から食欲がなくなってしまうことも。今回の制限緩和は利用者さんの心の健康を考慮し、面会の機会を増やすことで、それらの問題を解消することなどを目的としています。

今後は居室で面会ができるように施設内の環境整備や接遇面の見直しを行ない、入居者さんとご家族が安心して面会できる環境を整えていきます。

（済生記者 山田裕樹）





今後のチームの活動として、糖尿病についてのアンケートを実施して結果を地域の方にフィードバックするなど、その人らしい安心した生活が送れるように支援していきます。

(患者サポートセンター師長 廣中紀子)



**口でも目でも楽しめる おもち焼き祭り**

天拝

11月27日、デイサービスセンター天拝では「おもち焼き祭り」が行なわれ、利用者さん35人・職員10人が参加しました。この日はとても寒い日でしたが、事前に職員がお餅をつき、利用者さんの前であんこと栗を入れてこねたり、焼いたり。焼きたてを食べた利用者さんから「おいしい」や「見ていて楽し



11月22~24日、全国アビリンピック大会が愛知県国際展示場

**全国アビリンピックに熊本代表として出場**

ピック大会が愛知県国際展示場

(支援員 松永 和)



**看護師や事務職員がロボット支援手術を体験**

〈東京〉中央病院

11月22日、当院手術室で職員向けの「ロボット支援手術体験会」を開催しました。このイベントでは、日本初の国産手術支援ロボット「Inori」を使用し、33人の職員が参加しました。参加者は、実際に手術で執刀している医師からのレクチャーを受け、1人5分間程度コックピットに入ってロボットのアームを操作し、手術を体感しました。

看護師や医療技術部門、事務員など幅広い職種の職員が集まり、最新の医療技術に触れる貴重な機会となりました。次回は地域のクリニック等の医師を対象に同様の体験会を開催予定で、地域医療の向上にも寄与することが期待されています。

(済生記者 鈴木香純)

奈良病院

**フードドライブを初開催**

フードドライブ実施委員会が中心となり、11月14日、当院内



で初めてのフードドライブを実施しました。これまでも期限切れが迫った備蓄水をフードバンク奈良に何度か寄付してきました。今回は自宅に眠る食品や日用雑貨を持ち寄り、フードロスの削減や経済的に困っている家庭につながるようチラシを作成して職員に呼びかけました。

**糖尿病の正しい知識を**

山口総合病院

事務部特命参事兼総務課長 中尾直史

11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、同日、糖尿病週間行事を当院で実施しました。

糖尿病腎対策チームを中心に24人の職員が参加し、フットケア・栄養指導・体力診断・血糖測定などのコーナーを開設。また、ポスター展示、災害時の対応物品の紹介などを行ない、約40人の地域住民が来場しました。来場者からは「糖尿病について理解を深めることができた」「誤った知識を修正することができた」など多くの意見を聞くことができました。

いわ」などの声があがり、身も心も温まる和やかなひとときを皆で過ごしました。こうしたアクティビティは、心の和みやコミュニケーションの促進にもつながります。今後楽しいイベントが続けられることを記者として期待しています。

(特養むさし苑 済生記者 岸川涼二)

で開催されました。アビリンピックは「アビリティー(能力)と「オリンピック」を合わせた造語で、障害のある人が日ごろ職場などで培った技能を競います。当施設からはクリーン「Team」の男性利用者さん1人が熊本県のビルクリーニング部門の代表選手として出場しました。

仕事終わりの時間を使っていた皆さん練習を重ね、本番に挑みました。惜しくも入賞はなりませんでした。惜しくも入賞はなりませんでした。今後の清掃業務を行なっていく上で励みになると思います。練習から本番まで、本当にお疲れさまでした。



## 医師・看護師ら約30人で 脳死判定について学ぶ

福井県済生会病院

10月25日、脳死による臓器提供を想定したシミュレーション研修会を実施しました。これは10月の「臓器移植普及推進月間」に合わせたもので、隔年で実施されています。



当日は医師・看護師・検査技師・薬剤師ら約30人が、脳死判定医、患者、患者家族などの役割に分かれ、法的脳死判定の手



順や注意点について確認。実際にシミュレーターと脳波測定器などの医療機器を用い、目やなどを刺激したり、耳に水を入れて反応がないことを確認したりしました。

院内移植コーディネーターの山本恵理子看護師長は「実際に症例が発生した際に備えた良い研修会になりました」と話しました。

(済生記者 田中一弥)

## 夜間の火災発生を想定した 防災訓練

11月15日に当苑で防災訓練を



実施し、入居者さん・職員など44人が参加しました。今回の訓練では夜間の地震発生直後の火災発生を想定。参加した職員は、初期消火・初期消火失敗から避難誘導・本部報告までを緊張感を持って真剣に取り組みました。災害発生時における迅速な対応能力を高める目的で実施できている、新人職員をはじめ先輩職員にも非常に良い経験と勉強になりました。

防災訓練後にはBLS訓練も行なわれ、心肺蘇生法やAEDの使用法などを看護課長から実践形式で教わり、基礎的な救命処置の技術を学びました。

した。

(済生記者 岸川涼二)

## 介護フォーラムに55人

11月28日、当院看護部教育委員会が企画した「介護フォーラム」を開催しました。

本フォーラムは毎年、介護サービスの向上を目的に介護福祉



士やケアワーカーが演題を発表するもので、総勢55人が出席。今回は四つの部署がそれぞれ「ICT活用による転倒の削減」「おむつの不快感の軽減とコスト削減」「介護用チェッ



クリストの成果」「センサーコード設定防止忘れ対策」をテーマに発表しました。中でも「ICT活用による転倒の削減」は、ICTの活用と人にしかできないケアの融合により、患者・利用者さんの安全を守ることや満足度の向上が期待できる内容でした。参加者からも「ぜひ自部署にも取り入れたい」との意見が多数ありました。(看護部 椿 真弓)

## 介護士6人が永年勤続表彰

当苑の介護士6人が全国老人福祉施設協議会から表彰状を授与されたことを受け、12月5日に表彰式を行いました。

この表彰は、高齢者の尊厳と自立を支援するために老人福祉や介護の向上に貢献した勤続15年以上・20年以上の職員に贈られるものです。

受賞者代表は「入職以来、諸先輩や利用者さんに多くのことを教わり、さまざまな経験をさせていただきました。これからは私たちが教わったことを後進に伝え、働きやすい職場そして利用者さんが笑顔で生活できる



## かまどベンチで炊き出し 使い勝手も上々!

本誌9月号で紹介してきたインクルーシブ防災活動の一つ、かまどベンチ制作。今回は実践訓練として12月1日に行なった炊き出しの様子を紹介しました。

当日は市内各地区で地域防災訓練が実施され、かまどベンチを制作した西豊田地区では防災訓練後、そのお披露目を兼ねて炊き出し訓練も実施。約80人が参加し、豚汁に加え、ポリ袋で一人分ずつのご飯も炊いてみました。市販のかまどベンチ



に比べ一回り大きく、通気口を設けているため火力もパツチリで、使い勝手は良かったです。今後も炊き出し訓練の際にはポリ袋を使ったアイデアレシピを作ることで、食の面からも防災に対する意識を高めることができたいと思います。

(地域相談員 望月亜紀)





## 済生会広報のスタンダードルールとは

広報実務研究会

11月29日、済生会本部大会議室で第17回広報実務研究会（済生記者研修会共催）を「みんなで考えよう！」広報のルール」をテーマに開催し、約50人が参加しました。

広報活動をすすめる上で留意する法律やガイドライン、用語の表現などを確認する学習会の後に、グループワークを実施。「そのイラストどこからもってきた？問題（著作権）」「日本『最大』の社会福祉法人と言っているのか問題（医療広告ガイドライン）」や肖像権、個人情報保護など六つの課題をもとに、各グループで模索した広報ルールの最適解を発表しました。

今後、この発表内容を幹事会でまとめてフォローアップ研修を実施し、今回の成果は済生会広報のスタンダードルールとして広報活動ハンドブック改訂版に収録予定です。

（会長）京都済生会病院  
済生記者 松岡志穂

## 〈山形〉はやぶさ保育園 干し柿ってこんなに甘い

11月18日、4歳児23人と5歳児19人で干し柿作りを行ないました。

たくさんある柿の中から、自分が食べたい柿の一つ選ぶところから開始。次はピーラーを使った皮むきで、皆集中して黙々と作業していました。また、なかなか皮がむけず困っている友だちを手伝う優しい姿も見られました。

皮むき後は自分で柿に紐を付け、熱湯に潜らせ、戸外に干します。子どもたちは「どんな色になったかなあ〜」と干し柿の



完成を楽しみにしている様子でした。

干してから16日目の12月3日、ついに実食！干し柿を初めて食べる子もいる中「甘い！」「バナナみたい！」とさまざまな感想が飛び交い、「もつと食べたい！」とお代わりする子もいました。

（済生記者 齋藤里美奈）

## 〈埼玉〉川口総合病院 仕事の魅力を全力プレゼン！

11月9日、大宮ソニック市民ホールで埼玉県教育委員会主催の「お仕事図鑑 pitchトーク」が行なわれ、人事・総務課の本

橋和宏さんが参加しました。このイベントは社会で活躍する大人が仕事や生き方について90秒でプレゼン（pitch）し、子どもたちに自分の将来を考えるきっかけを提供するというもの。

はじめに10のブースに分かれ、各ブースからファイナリストを選出。ゲームクリエイターや刑務官などさまざまな職種の人がいる中、病院事務職員の本橋さんもファイナリストに選ばれました。

加者から盛大な拍手を受け、「病院の仕事の素晴らしさを理解してくれたらうれしい」と話しました。

（医療安全管理室 櫻井雅彦）



## 載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

### 看護補助者の満足度UPが看護の質の向上につながる

京都済生会病院

岡本感染管理特定認定看護師

檀野統括看護課長

「ナーシングビジネス」第18巻12号（メデイカ出版）の特集「組織の

ワークエンゲージメントを高める時間管理術」に、岡本教子感染管理特定認定看護師と檀野由美統括看護課長が「業務改善で得た時間を看護補助者のワークエンゲージメントにつなぐ」を寄稿した。

当院では2022年の新築移転

時に感染防止と業務負担軽減を目的に、汚物処理室に使い捨てパルプ容器粉砕装置「マセレーター」を導入。看護補助者の業務負担軽減がなされ、アンケートでは「汚物処理に対する精神的負担がなくなった」など満足度の高い結果が得られた。加えて、看護師との協働により看護チームの一員として働くことに好意的であることも示唆されたと述べている。看護補助者の満足度を高めるこ

とが看護の質の向上につながると記事を締めくくっている。

（済生記者 松岡志穂）



## 大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

### 病棟クラークのやりがい

〈埼玉〉川口総合病院では看護補助者を積極的に募集中。病棟クラークの2人に日々のやりがいを聞きました。

ナースステーション内で、ひときり大きな声で元気に看護師さんに声をかけると、小山恵美さん。子どもと過ごす時間を多く取りたいと考えて、4年前に徒歩通勤できる当院へ転職しました。「私のいる病棟は緊急の対応が必要な患者さんが多く、慌ただしいときもありますが、チーム皆で立ち向かえることがやりがい」

とのこと。

また、病棟クラーク13年目の菅野円満さんは「入院していた妊婦さんが無事出産して皆で喜び合ったり、丁寧に挨拶をしてくれたり。そのような優しい場面に、日々立ち会えることが資力だなあと感じています」と話





してくれました。

(埼玉・川口総合病院 済生記者)

原 衣里奈

★マスク越しにでも伝わる温かい笑顔。病院に来るたびお二人に励まされる患者さんも多いのでは。

(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

### 救急車もハロウィン仕様

10月26日、病院近くの新大工町商店街で催されたハロウィンイベントに職員4人が参加し、救急車の展示と乗車体験を行いました！

現地では飾り付けをしている最中から「乗車できますか？」の声が(恐るべし、救急車人気!)。ハロウィン



ンのお菓子も配布しました。じーっとこっちを見つめている子どもと目が合うと、ゆっくり近づいて来て「トリック・オア・トリート!」。

勇気を振り絞ったその姿に感動し、本当は一つだけ選んでもらうお菓子を二つにしたのは言うまでもありません。

乗車タイムが始まると、あっという間に長蛇の列(306人乗車)。しかし、人気は運転席のみで「助手席ならず乗れますよ」と声を掛けても振られてばかり。来年は助手席にもハンドルを付けてみるか……。

(長崎病院 放射線室技師長)

河野 順

★助手席にハンドルを付けたら、国産車と輸入車とを体験できて一石二鳥!! さらに人気が出る予感(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

### ようこそ、今野さん

#### 交流制度で当院広報室へ

2024年度の事務職員交流制度を利用して、10月21・22日に(茨城)水戸済生会総合病院・企画広報課の今野正俊さんが(東京)中央病院の広報室へ来てくれました。

SNSの活用や広報媒体のネタ集め方法など、私たちが日ごろ行っている広報活動を見ていただいた

好きなお菓子を選んで食べている姿がとてもかわいかったです。

(奈良・中和病院 済生記者)

米井 悠

★将来、お菓子を配るようになった8人は、どんな大人になっているのでしょうか? 皆の成長が楽しみです!

(大空出版 江口仁盛)

### くだものさんになりきり

#### 「トリック・オア・トリート!」

長崎病院託児所で10月31日、14人の子どもたちが仮装をしてハロウィーンを楽しみました。

今年の仮装のテーマは絵本「くだものさん」のキャラクター。子どもたちは「ぶどうさんがいい」「レモンさんがいい!」などと盛り上がりながら自分で選んだ衣装を着て、い

ざ管理棟へ出発。「トリック・オア・



仲間からの心強い応援で無事全員完走!

師走とは思えないほどの暖かな日差しの中、第42回川口マラソン大会が12月1日に青木町公園総合運動場

で開催され、(埼玉)川口総合病院から佐藤雅彦病院長をはじめ職員41人が力走しました。

ハーフ・10キロ・3キロ・親子2

キロの4コースがあり、それぞれ希望のコースに参加。トレーニングの成果を十分に発揮することができ、無事全員完走を果たしました。

コース沿道には、手作りのうちわを持参し応援に駆け付けた仲間の姿も。完走した職員からは「沿道にいる仲間からの応援がとても心強かった」など感謝の声がありました。

マラソン大会を通じ、日々の健康や地域とのつながりの大切さ、そして何より「職員間の仲間意識」を強く固めてくれたと感じています。

(埼玉・川口総合病院 人事・総務課 本橋和宏)

★全員完走すごいですね……。沿道



### 大きな声と笑顔に包まれて

#### ハッピーハロウィン!

10月31日、(奈良)中和病院内保育所「キッズランドひまわり」主催のハロウィンイベントが行なわれました。8人の子どもたちはプリンセスやかぼちゃの仮装で「ハッピーハロウィン」と言いながら、中島祥介院長、高橋久子看護部長、辻内雅

彦事務部長、川東和茂総務課長のもとへお菓子をもらいに行きました。

中島院長は「よく来てくれましたね。ハッピーハロウィン」と笑みを見せ、一人ひとりにお菓子を配布。子どもたちも「ありがとう」とお礼を言いながら、かばんの中が増えていくお菓子をうれしそうにのぞき込んでいました。

保育所に帰ってから「お菓子パーティー」を開催。自分のかばんから



からの仲間の応援は何より力になりますね!

(本部広報課 大嶋 薫)

★インスタグラム、イベント情報や豆知識等ジャンルが広く面白いですよね! 編集も凝っていて、目が奪われます。(本部広報課 杉山菜央)

11月30日、滋賀県草津市での第7回済生会リハビリテーション研究会へ出席後、とあるお店で二つの出会いがありました。

一つはこの写真、牛レバー串とレモンハイ。カウンターでおいしくいただきました!

そしてもう一つは、上海からの観光客2人組との出会いです。ふとした瞬間に目が合い、そのうちの1人が開口一番に「孤独のグルメの主人公に似ている!」と一言。中年男性ひとりカウンターで、横顔も……似ている……?

2人は日本が大好きだそうで、電車の時間が許すまで、スマホの翻訳機能を使って会話を楽しみました。このような素敵な機会を与えてくれた、済生会リハビリテーション研究

会

会

会

会

会

会

会

会





会。どうもありがとうございました！

(神奈川・若草病院 済生記者  
長澤伸哉)

★松重豊さんではなく漫画の井之頭五郎の方かな？ 似ているか、皆さん次の記事で確認ください。

(本部広報課 河内淳史)

### 広報のルールと一日格闘

11月29日、済生会本部で本部広報課と広報実務研究会が共催する「広報のルール」についての研修に参加しました。

普段何気なく使う表現でも、病院広報の場合、医療広告ガイドライン等の規制があります。いったい、何がよくて、何がよくないのか？ どこまでが広報で、どこからが広告なのか？



筆者(前列左)

医療広告かどうかの基準となる

キーワードは「患者の誘引性」と「特定性」。しかし「限定解除要件」もあり……もう頭が混乱。「著作権」もありますし……。さまざまアンゴウと一日格闘しました。

でも、安心してください。皆さんの隣には一緒に戦う仲間がいます！ その名は「広報実務研究会」。やる気、この研究会の頼りになる幹事、笑いがあれば前へ進めますよ（あくまでも一個人の感想です）。

(神奈川・若草病院 済生記者  
長澤伸哉)

★会冒頭を見学させていただきました。細かいルールの中で広報に奔走する皆さん。頭が下がります。

(メデイカル・リーブ 岩谷純一)

### 102歳！

#### 元気にタマネギ植え

(山口) 貴船福祉ケアセンターにある8坪程度の農園で、11月15日、毎年恒例のタマネギの植え付けを行いました。

土を掘り返し、畑などで土を筋状に盛り上げる畝を作り直してタマネギの苗を約200本用意。当日は介護職員がユニットごとに利用者さんを農園へ連れて行き、秋晴れの日差しのもと、合計30人ほどが植え付け



をしました。自分が苗を植えた作物には愛着がわくもので、五感が刺激され、笑いの絶えない大切な行事の一つです。

この行事を誰よりも心待ちにしてるのは、102歳の利用者さん。「畑は座ってではできん」と畑の土を一步一歩踏みしめ、素手で苗を植えます。そして「大きく育つんよ」と幼い苗に手を合わせ、思いを込めます。収穫できる時期には103歳。元気にその日を迎えられるように。

(山口・貴船福祉センター)

機能訓練指導員 河村洋子

★一歩一歩大地を踏みしめて作業される様子には、人生経験の豊かさや力強さを感じます。

(本部広報課 杉山菜央)

### 目印はオレンジ色

#### そして胸元の……

ソーシャルインクルージョン事業推進のため、10月に山口総合病院の

オリジナル法被とのほりを製作しました！  
山口県の名産の夏みかんで、ガードレールも夏みかんをイメージしてオレンジ色なことが有名です。地域色を出すため、当院の法被もオレンジ色に。そして胸元には、済生会のマスコットキャラクターをプリントしました。



当院では地域のスーパーマーケットやショッピングモールと連携し、

ソーシャルインクルージョン事業を展開。今回製作した法被とのほりを目印に、より多くの方を巻き込んだ活動を実施します。  
(山口総合病院 MSW 野崎希美)  
★早速活用してもらえてうれしいです！ さいせいくん、ぜひ皆さんも

広めてください。

(本部広報課 杉山菜央)

### トリック・オア・トリート！

10月31日のハロウィン当日、広島病院併設の保育室さくらの園児9人が、老健はまな荘にもやって来ました。

事前に練習していたのか、仮装した園児は「トリック・オア・トリート」と待ち受けていた女性職員に駆け寄って来ました。職員が「ハッピーハロウィン」と言ってお菓子を渡すと、子どもたちは持つてきた籠に一所懸命お菓子を詰め込んでいました。中にはお礼にと、他部署でもらってきたお菓子をくれる優しい園児も。短い間でしたが、とてもほっこりした時間を過ご



のか？

医療広告かどうかの基準となる

キーワードは「患者の誘引性」と「特定性」。しかし「限定解除要件」もあり……もう頭が混乱。「著作権」もありますし……。さまざまアンゴウと一日格闘しました。

でも、安心してください。皆さんの隣には一緒に戦う仲間がいます！ その名は「広報実務研究会」。やる気、この研究会の頼りになる幹事、笑いがあれば前へ進めますよ（あくまでも一個人の感想です）。

(神奈川・若草病院 済生記者  
長澤伸哉)

★会冒頭を見学させていただきました。細かいルールの中で広報に奔走する皆さん。頭が下がります。

(メデイカル・リーブ 岩谷純一)

土を掘り返し、畑などで土を筋状に盛り上げる畝を作り直してタマネギの苗を約200本用意。当日は介護職員がユニットごとに利用者さんを農園へ連れて行き、秋晴れの日差しのもと、合計30人ほどが植え付け

しました。

ところで、ハロウィンはコスプレや仮装をして楽しむ日だと思っていました。今回の取材はハロウィンの風習について知るよい機会になりました。これからの取材を通じて日々精進します(笑)。  
(広島・老健はまな荘 済生記者  
佐藤 聡)

★仮装した子どもたちにお菓子を配るのは、子どもたちを魔女や悪霊に見立てて、厄払いをしているらしい？

(本部広報課 杉山菜央)

### 廻る！ 回転寿司パーティー

11月20日に回転寿司パーティーを行いました。当日は計110人以上が参加。給食業務の委託会社が所有するレーンを食堂に設置してくれ、回転寿司だけでなく、桶寿司(バイキング形式)や酢粥のちらし寿司など、個々の食事形態に合わせたお寿司を提供しました。

食堂に「廻る寿司」が登場すると、キラキラした瞳で流れてくるお寿司に目を凝らす利用者さんたち。思わず立ち上がりお皿を取る姿も！

回転寿司の良さは、自分で好きなものを選択する楽しさがあるところ。好きなネタを好きなだけ(限度はありますが……)、大きな口で頬張って、皆さん美味しそうに笑顔で



たくさん食べていました。

利用者さんのお腹はもちろん、見ている職員のお腹いっぱいになりました。ごちそうさまでした！

(静岡・特養小鹿苑 済生記者  
本間佐知子)

★好きなものを、好きなだけ……。どのネタも美味しそうで何から食べ

### 次号予告

済生 No.1148 [令和7年2月号]

済生会の不易流行論 (197) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 浅野和之

口福につぼん (89)

てづくりおもちゃ いまいみさ

ようか迷っちゃう！

(本部広報課 杉山菜央)

### みんなで一緒に展覧会へ

「俺にもできるかな?」。昨年7月頃、臨床美術による創作活動を始める際に、入居者の鈴木喜一さんが不安そうにつぶやいた言葉です。

臨床美術は、右脳から刺激し脳全体を活性化させ五感をフルに使う芸術療法です。障害があるから絵を描けないということはありません。視覚障害がある鈴木さんは、すいかをイメージした色と実際にすいかを食べた感じた(味覚)色を使い、自由な表現で作品を制作。タイトルは「オモシロイすいか」です。

完成作品は障害のある方を対象とした「きざしとまなざし公募展」に応募。11月7日、山形市内で開催された展覧会へ入居者さん3人を連れ





熊本、松山から「愛」をお届けします!

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」 熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428
松山ワークステーション「なでしこ」 愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)
♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)
◆くまドレヌ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレヌ)
◆元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
https://www.saiseikai.or.jp

ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



北里博士ゆかりの地を訪ねて

新千円札の肖像に北里柴三郎博士が選ばれたことを機に、博士ゆかりの地・松川近辺を訪ねてみました。
博士は市内を流れる松川沿いに別荘を構え、伊東市と熱海市をつなぐ鉄道・伊東線の誘致をはじめ、子どもたちが使う通学橋の架け替え、日本初の温泉プールを地域住民に開放



出かけてきました。
「次は何にするかな?」と明るく話す鈴木さん。創作活動が自信や意欲向上にもつながったようです。
(山形・特養ながまち荘
長期入所介護職員 臨床美術士 勅使河原明奈)
★なんてすてきなスイカー! シャクッと甘くて水分たっぷり、夏のあの日の味わいを思い出しました。
(メデイカル・リーフ 坂本陽子)



するなど、地域の発展に大きく貢献しました。
別荘は老朽化のため2001年に解体されましたが、跡地は現在も野間自由幼稚園として利用され、広大な庭園は当時の面影を残したまま園庭に。昨年1月には松川遊歩道に博士の顕彰碑が建立され、「病を未然に防ぐことが医の本道である」という博士の言葉とともに市民を見守っています。
博士の偉業を忘れずに、その思いを後世にも伝えていきたいです。
(静岡・川奈臨海学園 済生記者 鈴木一大)
★取材で川奈臨海学園へお伺いしました。今度は、北里博士ゆかりの地も訪れてみたい!

(本部広報課 大嶋 薫)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。
以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生 [令和7年1月号]

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年1月10日発行
通巻第1147号 (第101巻第1号)

編集兼 発行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073
東京都港区三田 1-4-28
三田国際ビルディング 21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀 4-4-1

©社会福祉法人 済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 119
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 66
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 405 (数字は令和5年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万6000人。



| 済生会 福利厚生制度 |

# 団体扱自動車保険のご案内

取扱い保険会社に

\\ **三井住友海上火災** が加わりました! //

# 職場で入れば 選べて、おトク。

団体扱契約は  
一般契約に比べて  
**約5%割安**※

本制度は職員の方まで、  
支えていただく制度です。  
たくさんの方が加入することにより  
**割引率が拡大**します。  
是非、ご加入を検討ください



お見積り依頼・制度の詳細は済生会団体扱自動車保険パンフレットから  
パンフレットの連絡票・保険証券(写)・車検証の3点をご用意ください▶



取扱い保険会社

● 損保ジャパン

● 東京海上日動火災

● あいおいニッセイ同和損保

● 三井住友海上火災

※団体扱割引は一般契約と異なり割引増がかりませんので、約5%割安となります。団体扱年一括払いは一般契約年一括払に比べて、5%割安となります。

●このポスターは団体扱自動車保険の概要を説明したものです。

●詳細につきましては取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

●団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が引受保険会社の定める条件を満たす場合のみとなります。

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization | 第1147号 | 令和7年(2025年)1月10日発行(毎月1回・10日発行) | 社会福祉法人 済生会